ロ頭発表プログラム ■第1日目午後

4月26日(水)	第1会場	第2会場
14:00	101 座長 トマト半身萎凋病に対するトマト褐色 根腐病菌の影響 加納亜沙子 ² ・○狩野晃一 ¹ ・渡辺秀 樹 ³ ・宇佐見俊行 ¹ (¹ 千葉大院園・ ² 千葉大園・ ³ 岐阜農技セ)	201 座長 Alternaria selini よるパセリー葉柄基部 腐敗症状の発生 ○三澤知央¹・黒瀬大介²(¹道総研・ 道南農試・²CABI-UK)
14:12	102 ショウガ根茎腐敗病菌の土壌中の動態 と発病の関係 ○菱池政志(和歌山県農業試験場)	202 日本国内におけるネギ黒腐菌核病菌の 形態的特徴と菌糸和合性 ○片岡善仁 ¹ ・上村英俊 ¹ ・田村剛史 ¹ ・ キム オッキョン ² ・根岸寛光 ² ・篠原 弘亮 ² (¹ 横浜植木(株)・ ² 東京農大農)
14:24	103 鹿児島県におけるキャベツ根こぶ病の 発病を回避する定植時期 ○湯田達也¹・樋口康一²・尾松直志¹ (¹鹿児島農総セ・²鹿児島曽於畑かん セ)	203 Plectosphaerella cucumerina による ジャガイモ葉枯病の発生 ●宮田穂波¹・佐藤豊三²・大城 篤³・上遠野冨士夫¹・廣岡裕吏¹(¹法政大植物医科・²農研機構遺資セ・³沖縄農研セ)
14:36	104 フザリウム属菌によるレンコン腐敗病 の葉の病徴と地下茎の障害の関連性の 解明 ○出穂美和 ¹ ・角田佳則 ¹ ・鍛治原寛 ¹ ・ 佐々木一紀 ² ・竹原利明 ³ (「山口農林 総技セ・ ² 山口大農・ ³ 農研機構 西日 本農研)	Morphology and genetic characterization of <i>Phomopsis asparagi</i> , causal organism of stem blight of asparagus in Myanmar Myo, Z. ¹ , Seint, S.A. ² , and Matsumoto, M. ³ (¹ ISGS, Kyushu Univ., ² YAU, ³ ITA, Kyushu Univ.)
14:48	105 ジャガイモ疫病菌に感染した塊茎組織 における常在性内生細菌密度の変化 ○秋野聖之 ¹ ・大澤 央 ¹ ・荒木宏通 ² ・ 浅野賢治 ³ ・近藤則夫 ¹ (¹ 北大院農・ ² カルビーポテト・ ³ 農研機構北農研)	205 アスパラガス属野生種の一種であるハマタマボウキから分離された Neopestalotiopsis clavispora による新病害について ●大迫佳奈¹・Thao L.D.²・Myo Z.²・飯山和弘¹・尾崎行生¹・古屋成人¹・松元 賢³(¹九大院農・²九大地球社・³九大熱研セ)
15:00	106 レタスバーティシリウム萎凋病の発生 地域に分布するネグサレセンチュウに ついて ● 須田美穂¹・伊藤瑞穂²・高木素紀³・ 渡辺賢太³・水久保隆之⁴・宇佐見俊 行¹(¹千葉大院園・²株式会社 GRA・ ³茨城農総セ園研・⁴丸和バイオケミカル(株))	206 New disease report on a wild species of asparagus plant caused by <i>Diaporthe</i> spp. in Japan ■ Thao, L.D. ¹ , Ikeuchi, T. ² , Mori, M. ² , Murakami, K. ² , Kanno, A. ³ , Uragami, A. ⁴ , Ozaki, Y. ⁵ , and Matsumoto, M. ⁶ (¹ ISGS, Kyushu Univ., ² Kagawa, PAES, ³ LS, Tohoku Univ., ⁴ NARO, ⁵ BBS, Kyushu Univ., ⁶ ITA, Kyushu Univ.)

第3会場 第4会場 第5会場 501 座長 301 座長 401 座長 生育初期におけるダイズ茎疫病抵抗性 種子と花粉で後代に伝搬する Pyrus Genetic diversity of Myanmar strains の品種間差異と種子処理剤による発病 pyrifolia cryptic virus 外被タンパク質 of Ralstonia solanacearum • Kyaw, H.W.W.¹, Matsumoto, M.², 抑制効果 をコードする分節ゲノム ○赤松 創¹ · 加藤雅康^{2,3} · 越智 Kurose, D.³, Iiyama, K.¹, Horita, M.⁴, ○大崎秀樹・佐々木厚子・長岡(中蘭) Tsuchiya, K.¹, and Furuya, N.¹ (¹Grad. 直^{2,4} • 三室元気² • 髙橋真実¹ (¹農研 栄子·大田将禎·中畝良二(農研機構 機構•中央農研北陸•2農研機構•中 School Agri. Kyushu Univ., ²Inst. of Trop. 果樹茶研) 央農研·³国際農研·⁴農研機構·経営 Agri. Kyushu Univ., ³CABI-Europe-UK. 戦略室) ⁴Inst. Agro-Environ. Sci.) 302 402 502 イネいもち病抵抗性 NLR 免疫受容体 大分県の施設栽培ピーマンから分離さ 1989 年千葉県にてコリアンダーより Pii-2 に存在する NOI/RIN4 ドメイン れたトウガラシ退緑ウイルスの諸性質 分離された細菌の同定 ●菊池明日香¹·土屋健一²·瀧川雄 は Pii 依存的抵抗性に必要な と塩基配列の解析 ○千秋祐也¹・宇杉富雄¹・櫻井民人¹・ -3 (1 静岡大農 • 2 九大院農 • 3 静岡大 OsExo70-F3 と結合する ○藤崎恒喜¹ • 阿部善子¹ • 神崎英子¹ • 富高保弘²·久保田健嗣¹(¹農研機構· 創造院) 神崎洋之1・齋藤宏昌1・寺内良平1,2 中央農研·²農研機構·九沖農研) (1岩手生工研・2京大院農) 303 403 503 抵抗性品種「みねはるか」、「ゆめまつ 北海道に発生するビート黄化ウイルス ホルトノキ萎黄病ファイトプラズマの (BLYV)とアブラナ萎黄ウイルス り」によるイネいもち病の抑制 種の同定 ●遠藤 藍¹・岩渕 望²・前島健作²・ ○清水佐知子·星野 滋·浦野光一郎 (BrYV) の宿主範囲と遺伝的特性 (広島総研農技セ) 吉田直人・○玉田哲男(ホクレン農総 大島研郎1(1法政大植医・2東大院農・ ³琉球大農・⁴徳島大生資産) 404 ネコブセンチュウの病原性機構と植物 オオバコモザイクウイルスの遺伝的に アジサイ, キク, キリ, クワ4種植物 の感染防御機構の解明 多様な新規分離株の単離と系統解析 の Phytoplasma 性病原体の人工培養 ○門田康弘¹・市橋泰範^{1,2}・植原健 ●田中雅士1・野中友美子1・今井一 法確立と、それら病原体の戻し接種に 人³·岩堀英晶⁴·槇 紀子¹·鈴木孝 穂²・菅原康太²・山下一夫³・花田 よる病徴の再現 征⁵・白須 賢¹(¹理研 CSRS・²JST 薫⁴·一木(植原)珠樹⁴·小松 健¹· ○岸 國平 (岸病害ラボ) さきがけ・3農研機構・中央農研・ 藤 晋一2(1農工大院農・2秋田県立 ⁴龍谷大農・⁵中部大応用生物) 大生資·3元青森産技セ野菜研·4農研 機構遺伝資源センター) 405 座長 305 505 水稲品種「銀河のしずく」のいもち病 日本国内のパッションフルーツに果実 ファイトプラズマの recA 遺伝子の偽 防除体系の検討 奇形を起すポティウイルスを新種 遺伝子化に関する変異解析 ○菅 広和(岩手農研セ) ●萩原悠理¹・前島健作²・難波成任²・ East Asian passiflora distortion virus & 大島研郎¹(¹法政大植医・²東大院農) して提案する 犬童奏実¹・佐藤佑華²・〇リスカ³・ 中村正幸1•福元智博4•澤岻哲也5• 藤 晋 $-2 \cdot$ 岩井 久 1 (1 鹿児島大農 • ²秋田県立大生資・³鹿児島大院連農・

4鹿児島農総セ果樹・5沖縄農研セ名護)

306 座長

Chitin nanofiber: a promising novel material for plant disease control

O Parada, R.Y.1, Egusa, M.1, Aklog, Y.F.2, Ifuku, S.2, and Kaminaka, H.1 (1Faculty of Agriculture Tottori University. ²Graduate School/Faculty of Engineering Tottori University)

406

国産ニンニク由来タマネギ萎縮ウイル ス (Onion yellow dwarf virus, OYDV) の遺伝的多様性

●稲 雪乃・篠原弘亮・根岸寛光・雨 木若慶・キム オッキョン (東京農大農)

506 座長

国内のキャッサバから初めて検出され たファイトプラズマの分子遺伝学的解

●鯉沼宏章・若木連也・宮﨑彰雄・岩 渕 望·丹野和幸·北沢優悟·前島健 作 • 山次康幸 • 難波成任 (東大院農)

■第1日目午後

■ 年 口 日 十 俊	66- A ID	77 a A 18
4月26日(水)	第1会場	第2会場
15 : 12	107 座長 トマト萎凋病菌 41-1 株から見出され た新たな AVR1 変異様式 赤井浩太郎¹・菊地 秀 ^{2,3} ・鮎川 侑 ⁴ ・中田菜々子 ⁵ ・寺岡 徹 ^{1,6} ・小松 健 ^{1,7} ・○有江 力¹(¹農工大院農・ ²農工大院 BASE・³農工大リーディン グ・ ⁴ 農工大院連農・ ⁵ 千葉県農林総合 研究センター・ ⁶ 現農工大環安セ・ ⁷ 農 エ大グローバルイノベーション研究院)	207 座長 Colletotrichum tabacum によるジニア 炭疽病 (新称) の発生および品種間の 発病差異 久保田まや¹・○西村武祥²・廣岡裕 東²(¹東京農総研・²法政大植物医科)
15 : 24	108 トマト半身萎凋病菌の病原性決定染色 体の推定と解析 3 ●濱野あやめ・中尾圭佑・鈴木那奈・ 宇佐見俊行(千葉大院園)	208 <i>Colletotrichum</i> sp. によるシュッコンアスター炭疽病 (新称) の発生 ○菅原 敬 ¹ ・五十嵐美穂 ¹ ・工藤昌樹 ² ・長谷 修 ³ ・佐藤 衛 ⁴ (¹ 山形防除所庄内・ ² 山形北村山農普・ ³ 山形大農・ ⁴ 農研機構野菜花き研)
15:36	109 トマト台木品種のトマト半身萎凋病に 対する耐病性 ● 菊池琴乃 ¹ ・渡辺秀樹 ² ・渡辺博幸 ³ ・ 内館雅晴 ⁴ ・島﨑高嘉 ⁴ ・宇佐見俊行 ¹ (¹ 千葉大院園・ ² 岐阜農技セ・ ³ 岐阜飛 騨農事・ ⁴ 朝日工業)	209 3 種 Pythium 属菌によるアジサイ茎根 腐病(病原追加) ○永島 進 ¹ ・尤 暁東 ² ・東條元昭 ² (¹ 島根農技セ・ ² 大阪府大院生環)
15:48	110 Micro-Tom EMS 突然変異体由来 Sclerotinia minor 抵抗性株の選抜とその評価 ●服部 暉¹・石賀康博²・山岡裕一² (¹筑波大学院生物資源・²筑波大学生命環境系)	210 First Report of Stem Rot on Hydrangea Caused by <i>Phytophthora hedraiandra</i> in Japan ● Yosilia, R.¹, Morishima, M.², Suga, H.³, and Kageyama, K.¹ (¹River Basin Res. Center, Gifu Univ., ²Tochigi Pref., ³Life Sci. Res. Center, Gifu Univ.)
16:00	111 イチゴにおける紫外光誘導抵抗性の評 価法の検討 酒衞由里子 ¹ ・小林優大 ¹ ・福丸晴菜 ¹ ・ 椎葉美里 ¹ ・西村文宏 ² ・森 充隆 ² ・ 佐藤 衛 ³ ・○竹下 稔 ¹ (「宮崎大農・ ² 香川農試・ ³ 農研機構野菜花き研)	211 Phialophora sp. によるシャクヤク根腐病 (新称) ○川部眞登 ¹ ・築尾嘉章 ² ・田村隆幸 ³ ・ 桃井千巳 ¹ ・守川俊幸 ² (¹ 富山農総セ 園研・ ² 富山農総セ農研・ ³ 富山薬研薬 植セ)
16:12	112 座長 いもち病菌集団内エフェクター分布解析によるシコクビエいもち病菌の普通系コムギに対する新規非病原力遺伝子のクローニング ○足助聡一郎・Nicole Magculia・中馬いづみ・土佐幸雄(神戸大院農)	212 Pilidium concavum (Desmazières) Höhnel によるボタン褐紋病(新称) ○福間貴寿・永島 進(島根農技セ)

第3会場	第4会場	第5会場
307 空中超音波への暴露による植物の耐病性・耐塩性誘導に関する研究 ●川上大地 ¹ ・吉田隆延 ³ ・水上智道 ³ ・ 天野 裕 ⁴ ・岩ヶ谷照義 ⁴ ・有竹治郎 ⁴ ・ 後藤昭広 ⁴ ・江波義成 ⁵ ・山本雅則 ⁵ ・ 有元倫子 ⁵ ・寺岡 徹 ⁶ ・小松 健 ² ・ 福原敏行 ² ・有江 力 ² (「農工大院連 農・ ² 農工大院農・ ³ 農研機構・革新工 学セ・ ⁴ (株) プレテック・ ⁵ 滋賀農技 セ・ ⁶ 農工大環安セ)	407 アマニュウから分離された新種の Potyvirus ●城戸響介・高橋光政・日沖晴信・河 合茉紀・平栗章弘・川合 昭・西尾 健(法政大学植物医科)	507 LAMP 法によるキャッサバのファイトプラズマ検定の最適化 ●若木連也・鯉沼宏章・宮﨑彰雄・岩 渕 望・二條貴通・北沢優悟・前島健 作・山次康幸・難波成任(東大院農)
308 ウイルス抵抗性品種の作出に向けたユリ eIF4E アイソフォームのクローニング ●関村紘代¹・岡野夕香里¹・二條貴通¹・桂馬拓也¹・遊佐 礼¹・前島健作¹・近藤正剛²・難波成任¹・山次康幸¹(¹東大院農・²新潟農総研)	408 我が国におけるウメ輪紋ウイルス M 系統の初確認 ○大石盛伝・井上佳美・星野智士・牛 久修一・藤原裕治・本蔵洋一(横浜植 防)	508 リアルタイム定量 PCR 法によるキウイフルーツかいよう病菌 (biovar 3) の花粉からの検出の試み ○清水伸一¹・青野光男¹・篠崎 毅¹・三好孝典²・矢野 隆¹・澤田宏之³ (¹愛媛果樹研セ・²愛媛農水研・³農研機構・遺伝資源セ)
309 マツノザイセンチュウ感染後のクロマ ツ転写プロファイル ●山口莉未 ¹ ・田村美帆 ² ・渡辺敦史 ² (¹ 九大院生資環・ ² 九大院農)	409 座長 イネ縞葉枯ウイルスに感染したイネ科 雑草及び牧草からのヒメトビウンカに よるウイルス獲得 ○奥田 充 ¹ ・花田 薫 ² ・柴 卓也 ¹ ・ 平江雅宏 ¹ ・浅井元朗 ³ ・小林浩幸 ¹ (¹ 中央農業研究センター・ ² 農研機構 遺伝資源・ ³ 農研機構東北農研)	509 カンキツグリーニング病病原細菌の検 定に適したカンキツ樹ブランチカラー の採取方法 ○尾川宜広¹・中西善裕²・福元智博³・ 山口卓宏¹・中村正幸⁴・岩井 久⁴ (¹鹿児島農総セ大島・²大隅加工技研 セ・³鹿児島農総セ果樹・⁴鹿児島大農)
310 座長 比誘電率測定を用いた非破壊での植物 細胞内変化の診断法の開発 ○古川聡子 ¹ ・風巻朱佳 ² ・キック アル フレード ² ・鈴木敬久 ² (¹ 首都大学生 命・ ² 首都大電気電子)	410 トマト栽培施設内で発生するムラサキカタバミのトマト黄化葉巻病(tomato yellow leaf curl virus)の感染状況調査 ○大城 第 ¹ ・玉代勢優奈 ² ・貴島圭介 ³ ・稲田拓郎 ¹ ・安次富厚 ¹ ・山城麻希 ¹ (¹ 沖縄農研セ・ ² 沖縄防技セ・ ³ 八重山農林振興セ)	510 座長 ハーデンベルギア斑点細菌病(新称) の発生 ○石原 誠¹・小河誠司²(¹森林総研 北海道・²元福岡県森林林業技術セン ター)
311 DNA マイクロアレイを用いた植物病 書診断の応用研究(5) ○一色淳憲 ¹ ・大津貴義 ¹ ・辻 元人 ² (¹ 東洋製罐 GHD 綜研・ ² 京府大院生環)	411 ヴァージニア州における Red Blotch と他のブドウウイルス種の発症状況 ○荷田瑞穂・ジョーンズ テイラー (バージニア工科大学)	511 輸入検疫でオランダ産ヒヤシンス球根 から発見された <i>Dickeya solani</i> による 軟腐病 (新称) 平川崇史・上田幸史・上松 寛・○西 ロ 徹・藤原裕治 (横浜植防)
312 リアルタイム PCR 法によるタマネギ 紅色根腐病の菌密度評価と発生リスク の査定 ○吉田直人 ¹ ・津田秀樹 ² ・田中理恵 ³ ・ 二井本ちさと ¹ (¹ ホクレン農総研・ ² JA きたみらい・ ³ 網走農改セ)	412 シソモザイクウイルスのシソサビダニ による媒介特性および宿主範囲 ○久保田健嗣 ¹ ・宇杉富雄 ¹ ・千秋祐 也 ¹ ・富高保弘 ² ・岡田知之 ³ ・広瀬拓 也 ³ ・田中 穣 ¹ ・津田新哉 ¹ (¹ 農研機 構・中央農研・ ² 農研機構・九沖農研・ ³ 高知農技セ)	512 露地二ラに発生した <i>Herbaspirillum</i> sp. による二ラ条斑細菌病(新称) ○矢野和孝・沖 友香・森田泰彰(高 知農技セ)

■第1日目午後

■弗□日十伐		
4月26日(水)	第1会場	第2会場
16:24	113 コムギいもち病菌の保有するシコクビ エに対する非病原力遺伝子の検出と分 子マッピング ●天藤陽香・足助聡一郎・村上 翼・ 中馬いづみ・土佐幸雄(神戸大院農)	213 座長 Colletotrichum fioriniae によるカンキ ツ炭疽病の発生 ○田代暢哉¹・尾形綾子¹・正司和之¹・ 佐藤豊三²(¹佐賀上場営農セ・²農研 機構遺資セ)
16:36	114 エンバクいもち病菌のコムギ品種 Hopeに対する非病原力遺伝子のクローニング ●堀江晶子・小松香織・東 夏希・村上 翼・足助聡一郎・中馬いづみ・土佐幸雄(神戸大院農)	214 Colletotrichum nymphaeae (Passerini) Aa によるブドウ晩腐病 (病原追加) ○綿打享子¹・村上芳照²・内田一秀¹・功刀幸博¹・佐藤豊三³(¹山梨果樹試・²山梨総農セ・³農研機構遺資セ)
16:48	115 炭疽病菌といもち病菌のエフェクター 相同遺伝子の機能解析 ●林 蒼唯・髙原浩之(石川県立大)	215 Sclerotinia sclerotiorum によるマンゴー 菌核病(新称) ○安次富厚・大城 篤・山城麻希(沖 縄農研セ)
17:00	116 イネいもち病菌の感染時特異的分泌タンパク質 Rbf1 の機能解析 ○西澤洋子¹・望月 進¹,²・西村岳志¹,³・中島恵美¹・南 尚子¹・南 栄一¹ (¹農研機構・生物研・²現香川大・希少糖・³現名古屋大・農)	216 ビワの無病徴葉および枝から分離され た病原性をもつ Neopestalotiopsis 属菌 ●野澤俊介¹・内川敬介²・菅 康弘²・ 渡辺京子¹,3(¹玉川大・²長崎農技セ・ ³玉川大菌学応用)
17:12	117 Tin2 orthologues of Ustilago maydis and the close relative Sporisorium reilianum target different maize proteins Tanaka, S., and Kahmann, R. (Max Planck Institute of Terrestrial Microbiology)	217 Diaporthe sp. によるパッションフルーツ実腐病(新称) ●養島綾華 ¹ ・鳥本雄太 ¹ ・小野 剛 ² ・菅原優司 ² ・廣岡裕吏 ¹ (¹ 法政大植物 医科・ ² 東京小笠原農セ)
17 : 24		218 沖縄県宮古島でのバナナパナマ病の発生とその病原菌 ●二谷貴夫 ¹ ・赤井浩太郎 ² ・長谷川凌 ² ・鮎川 侑 ¹ ・千年 篤 ^{1,2} ・小松健 ^{1,2,6} ・池城隆明 ⁵ ・菊野日出彦 ³ ・夏秋啓子 ⁴ ・有江 カ ^{1,2,6} (「農工大院連農・ ² 農工大院農・ ³ 東京農大国際食料情報宮古亜熱帯農場・ ⁴ 東京農大国際食料情報宮古亜熱帯農場・ ⁶ 農工大 GIR)

第3会場	第4会場	第5会場
313 Convolutional Neural Networks を用いたキュウリ罹病薬の画像診断システムの開発 ●黒川達嗣¹・畠山恭輔¹・宇賀博之²・藤田恵梨香³・川崎雄介³・彌冨 仁³・鍵和田聡¹(¹法政大植物医科・²埼玉県農技研セ・³法政大応用情報)	413 アプラムシ 2 種の有翅虫および無翅虫 におけるウメ輪紋ウイルス媒介能の比 較 ○櫻井民人・千秋祐也・久保田健嗣・ 宇杉富雄・津田新哉(農研機構・中央 農研)	513 Pseudomonas syringae pv. actinidifoliorum によるマタタビ類斑点細菌病 (新称) ○澤田宏之¹・藤川貴史²・北 宜裕³・折原紀子³・篠崎 毅⁴・清水伸一⁴・中畝良二²・瀧川雄一⁵(¹農研機構・遺伝資源セ・²農研機構・果樹茶業研・³神奈川農技セ・⁴愛媛農水研・⁵静岡大院創造)
314 座長 非病原性 Fusarium oxysporum W5 の イネにおける動態と生残性 ●齊藤大幹¹・佐々木舞衣¹・畠山 聡²・梅村賢司²・倉内賢一³・鈴木智 貴⁴,5・寺岡 徹¹・小松 健¹,6・有江 力¹ (¹農工大院農・²Meiji Seika ファ ルマ (株)・³青森産技セ・⁴宮城古川 農試・5現仙台農業改良普及セ・6農工 大 GIR)	414 座長 アセチル化グリセリド(ベミデタッチ 乳剤®)の散布によるトマト施設での タバココナジラミとトマト黄化葉巻病 (TYLCV) の抑制効果 ○松浦昌平¹・加嶋崇之²・北村登史 雄³・梶原真二¹・安部 洋⁴(¹広島総研農技セ・²石原産業・³九州沖縄農研・4理研 BRC)	514 座長 Dickeya sp. によるサトウキビ芯腐細 菌病 (新称) ○會澤雅夫¹・安次富厚²・大城 篤²・山口綾子³・久保田菜夏⁴・瀧川雄一⁵ (¹那覇植防・²沖縄農研セ・³沖縄防技セ・⁴八重山農改・⁵静岡大創造院)
315 タケとクズ由来のミミズコンポストに 含まれる土壌伝染性植物病原菌抑制物 質の解析 尤 暁東¹・若菜大悟²・細江智夫²・ 下神幸博³・○東條元昭¹(¹大阪府大 院生環・²星薬大・³河内長野市環境政 策課)	415 アセチル化グリセリドと耐病性品種に よるタバココナジラミの TYLCV の媒 介抑制と保毒虫率への影響評価 ○大西 純 ¹ ・北村登史雄 ² ・加嶋崇 之 ³ ・安部 洋 ⁴ (¹ 農研機構・野菜花 き研・ ² 農研機構・九州沖縄農研・ ³ 石原産業・ ⁴ 理研 BRC)	515 サトウキビ芯腐細菌病より分離される Dickeya 属菌の性状と同定 ○瀧川雄一 ^{1,2} ・岡 かこ ² ・川村和生 ² ・ 丸山美咲 ² ・會澤雅夫 ³ ・安次富厚 ⁴ ・ 大城 篤 ⁴ ・山口綾子 ⁵ ・久保田菜夏 ⁶ (¹ 静岡大創造院・ ² 静岡大農・ ³ 那覇植 防・ ⁴ 沖縄農研セ・ ⁵ 沖縄防技セ・ ⁶ 八重山農改)
316 海藻資材によるアブラナ科野菜根こぶ 病の発病抑制 ○辻 元人¹・石田理子¹・道家章生²・ 小野 愛³・木村重光³・久保中央¹,3 (¹京府大院生環・²京都府農技セ海洋 セ・³京都府農技セ生資セ)	416 タバコモザイクウイルス感染植物におけるミカンキイロアザミウマ誘引性と そのメカニズム ○富高保弘 ¹ ・安部 洋 ² ・櫻井民人 ³ ・ 津田新哉 ³ (¹ 農研機構 九沖農研・ ² 理研 BRC・ ³ 農研機構 中央農研)	516 Pseudomonas cichorii によるツルマメ 褐斑細菌病 (新称) ●谷 沙世¹・入江沙織¹・大貫正俊²・ 佐藤豊三³・松元 賢⁴・飯山和弘¹・ 黒瀬大介⁵・土屋健一¹・古屋成人¹ (¹九大院農・²九州沖縄農研・³生物 研・⁴九大熱研セ・⁵CABI Europe-UK)
317 土壌還元消毒過程に関わる抗菌性物質 の生成と土壌微生物の動態調査 ○堀田光生 ¹ ・門馬法明 ² ・小原裕三 ¹ (¹ 農研機構・農環研・ ² 園芸植物育種研)	417 各種プラントアクチベーターによる キュウリ苗でのズッキー二黄斑モザイ クウイルス抑制効果 ○西村幸芳・西岡輝美・岡田清嗣(地 独 大阪環農水総研)	517 リンゴ急性衰弱症の発症部位から分離 される Dickeya dadantii ○藤川貴史¹・岩波 徹¹・佐々木真 人²・西田絵梨香²・菅 広和²・中村 太紀²(¹農研機構・果樹茶業研究部門・ ²岩手農研セ)
318 トルコギキョウ褐色根腐病に対する薬剤および土壌還元消毒の防除効果 ①近藤 亨(青森産技セ農林総研)		518 国内で分離されたジャガイモ黒あし病 菌 <i>Pectobacterium carotovorum</i> の再同定 ○藤本岳人 ¹ ・安岡眞二 ² ・青野桂之 ³ ・ 中山尊登 ¹ ・大木健広 ¹ ・眞岡哲夫 ¹ (¹ 農研機構・北海道農研・ ² 道総研・ ³ 農研機構・種管セ中央)

■第2日目午前

■第2日日午前		
4月27日(木)	第1会場	第2会場
9:30	119 座長 タバコ赤星病菌のテヌアゾン酸生合成 遺伝子 AtNPS5 は宿主タバコに対する 病原力に関与する ○赤木靖典¹・新城 亮²・三木淳一²・ 柘植尚志³・児玉基一朗¹(¹鳥取連大・ ²JT 葉たばこ研・³名大院生農)	219 座長 カジイチゴ (Rubus trifidus) のべと 病 (新称) の発生 ○大上大輔 ¹ ・野津あゆみ ² ・栢森美 如 ³ (¹ ホクレン・ ² 道総研中央農試・ ³ 道総研十勝農試)
9:42	120 免疫応答において MAPK 活性を可視 化するバイオセンサーの開発 ○安達広明¹・石濱伸明²・吉岡美樹¹・ 鳴坂真理³・鳴坂義弘³・吉岡博文¹ (¹名大院生農・²理研 CSRS・³岡山生 科研)	220 <i>Pythium splendens</i> によるロゼルアサ (ロゼル) 根腐病 (病原追加) ○戸田浩子 ¹ ・鈴木杏子 ¹ ・三宅律幸 ¹ ・ 鈴木良地 ¹ ・坂 紀邦 ¹ ・景山幸二 ² (¹ 愛知農総試・ ² 岐阜大流域研セ)
9:54	121 いもち病抵抗性における菌の増殖抑制 に関わる物質の探索 ○岩井孝尚 ¹ ・今香菜絵 ¹ ・光原一朗 ² ・ 瀬尾茂美 ² (¹ 宮城大食産業・ ² 農研機 構生物部門)	221 Phytophthora nicotianae によるロゼル アサ (ロゼル) 疫病の国内初発生 ○鈴木杏子¹・戸田浩子¹・三宅律幸¹・ 鈴木良地¹・坂 紀邦¹・景山幸二² (¹愛知農総試・²岐阜大流域研セ)
10:06	The DNA damage signal transducer ortholog <i>Mop53BP1</i> is expressed in germinating conidia of <i>Pyricularia</i> oryzae Ohara, A., Abe, A., and Sone, T. (Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ.)	222 トウキとミシマサイコから分離された 植物病原糸状菌 ○佐藤豊三¹・廣岡裕吏²・菱田敦之³・ 林 茂樹³・安食菜穂子³・川原信夫³・ 田村隆幸⁴・辰尾良秋⁵・村上芳哉⁵・ 高尾泰昌⁵・黒崎文也⁵・一木(植原) 珠樹¹・根本 博¹(¹農研機構遺資セ・ ²法政大植物医科・³医薬健栄研薬植 セ・⁴富山薬事研薬植セ・⁵富山大薬用 植物園)
10:18	123 座長 水田畦畔におけるイネいもち病菌のメ ヒシバへの自然感染の調査 ●木村晋輔・草場基章(佐賀大農)	223 カノコソウに発生した <i>Phoma</i> spp. の 病原性と種の同定 ●利根川千枝 ¹ ・佐藤豊三 ² ・飯田 修 ³ ・菱田敦之 ³ ・川原信夫 ³ ・廣岡裕 吏 ¹ (¹ 法政大植物医科・ ² 農研機構遺 伝資源セ・ ³ 医薬健栄研薬植セ)
10:30	124 ある一農家が保有する複数のイネばか 苗病発生水田から分離した Fusarium fujikuroi の個体分析 ○須賀晴久¹・船坂美佳¹・川畑文子¹・ 清水将文²・景山幸二³(¹岐大生命セ・ ²岐大応生・³岐大流域研セ)	224 コナラ属アカガシ亜属に新しく発生した <i>Erysiphe quercicola</i> (ウドンコカビ 科) ○高松 進 ¹ ・篠田俊哉 ² ・勝山さや ² (¹ 三重大院生資・ ² 三重大生資)

第3会場	第4会場	第5会場
319 座長 コムギ赤かび病で有効性が確認された デオキシニバレノール分解細菌の飼料 用トウモロコシへの応用 ○小板橋基夫¹・黄川田智洋²・菅原幸 哉¹・吉田重信³・伊藤通浩⁴・佐藤育 男⁵・對馬誠也 ⁶ (¹農研機構畜産部門・ ²農研機構北農研・³農研機構中央農 研・⁴琉大熱生研・ ⁵ 名大院生農・ ⁶ 東 京農大)	419 座長 青森県のスナップエンドウに発生した ウイルス病について 山下一夫 ¹ ・一木(植原)珠樹 ² ・ ○花田 薫 ² (¹ 元青森野菜研・ ² 農研 機構遺資セ)	519 座長 ムギ類黒節病の時空間分布解析 ○川口 章 ¹ ・吉岡陸人 ² ・森 充隆 ³ ・ 河田和利 ³ ・富岡啓介 ¹ ・竹原利明 ¹ (¹ 農研機構・西日本農研・ ² 山口農林 総合セ・ ³ 香川農試)
320 暖地ジャガイモのそうか病を抑制する 栽培体系の検討 ○菅 康弘¹・福吉賢三¹・三星暢公²・ 金澤 恵²・石川美友紀²・紀岡雄三²・ 野口勝憲²(¹長崎農技セ・²片倉コー プアグリ(株))	420 薬用植物ミシマサイコとカノコソウから見いだされた植物ウイルス ○一木(植原)珠樹 ¹ ・大橋美保 ¹ ・田村隆幸 ² ・辰尾良秋 ³ ・村上芳哉 ³ ・高尾泰昌 ³ ・黒崎文也 ³ ・佐藤豊三 ¹ ・花田 薫 ¹ ・青木孝之 ¹ (¹ 農研機構遺資セ・ ² 富山薬用植物指セ・ ³ 富山大薬用植物園)	520 ブロッコリー黒斑細菌病菌の感染時期 が花蕾腐敗病の発生に及ぼす影響 〇石山佳幸・山岸菜穂・清水時哉(長 野県野菜花き試験場)
321 ネギ黒腐菌核病に対する Coniothyrium minitans 製剤の効果的な処理方法 ○鈴木幹彦¹・伊代住浩幸²・斉藤千 温¹・墨岡宏紀³(¹静岡農林研・²静岡 経済産業部・³静岡中遠農林)	421 宮崎県内の栽培ラナンキュラスにおける Ranunculus Leaf Distortion virus の発生とその発生状況 ○早日早貴 ^{1,2} ・細川秀子 ³ ・菅野善明 ³ (「西臼杵支庁・ ² 宮大院農工・ ³ 南九大院園)	521 福岡県における 2016 年のキウイフルー ツかいよう病 biovar3 (Psa3) の発生状 況 ○菊原賢次・成山秀樹・石井貴明(福 岡農林試)
322 Novel strains of <i>Mitsuaria</i> chitosanitabida and <i>Ralstonia pickettii</i> as biocontrol agents against tomato bacterial wilt ○ Marian, M.¹, Koyama, H.¹, Suga, H.², and Shimizu, M.¹ (¹United Grad. Sch. Agric. Sci., Gifu Univ., ²Life Sci. Res. Center, Gifu Univ.)	422 ウメからの Plum bark necrosis stem pitting-associated virus と Little cherry virus 2 の同時検出技術 中畝良二 ¹ ・○大田将禎 ¹ ・沼口孝司 ² ・ 武田知明 ³ (1農研機構・果樹茶研・ ² 和歌山果樹試うめ研・ ³ 和歌山那賀農 振)	522 キウイフルーツかいよう病菌検出用 LAMP プライマーの特性 ○須崎浩一¹・澤田宏之²・牛田泰裕³・ 篠崎 毅⁴・清水伸一⁴・野口真弓⁵・ 青野光男⁴・森岡秀樹⁶(¹農研機構・ 果樹茶・²農研機構・遺伝資源・³香川 農試府中・⁴愛媛農林水産研果樹研セ・ 5佐賀果樹試・6愛媛県東予地方局)
323 Simplicillium sp. によるダイズのダイズさび病への抵抗性機構の解明 ●重松幸一 ¹ ・山岡裕一 ² ・岡根 泉 ² ・阿部淳一ピーター ² ・石賀康博 ² (¹ 筑波大院生物資源・ ² 筑波大生命環境)	423 ループプライマーの追加によるイチゴの病原ウイルス検出用 LAMP 法の改良 ○加藤 寛 ¹ ・福田理沙 ² ・西川尚志 ² ・ 夏秋知英 ² (¹ 宇都宮大バイオ・ ² 宇都宮大農)	523 座長 福島県におけるモモせん孔細菌病の発生助長要因 〇七海隆之・栁沼久美子(福島農総セ 果樹研)
324 座長 育苗培土の種類が4種のイネ種子伝染 性病害の発生に及ぼす影響 三室元気¹・○関原順子²・守川俊幸² (¹農研機構・中央農研・²富山農総セ 農研)	424 FTA カードによる Begomovirus 属ウ イルスの検出とベトナム産トマトから 検出された同属ウイルスの同定 ○髙田亜由美 ¹ ・Trinh X. Hoat ² ・夏秋 啓子 ¹ (¹ 東京農大国際・ ² PPRI, Vietnam)	524 福島県におけるモモせん孔細菌病菌のストレプトマイシン耐性菌の割合の調査 ●國京瑞季 ¹ ・七海隆之 ² ・栁沼久美子 ² ・キムオッキョン ¹ ・根岸寛光 ¹ ・篠原弘亮 ¹ (¹ 東京農大農・ ² 福島農総セ果樹研)

■第2日目午前

■第2日日十削		
4月27日(木)	第1会場	第2会場
10:42	125 宮城県における加温条件がイネ紋枯病 へ及ぼす影響について ○宮野法近・辻 英明・櫻田史彦(宮 城古試)	225 座長 農業生物資源ジーンバンク微生物部門 に登録された真菌類(糸状菌・酵母) 保存菌株の学名管理について ○青木孝之・埋橋志穂美・澤田宏之・ 永井利郎・一木(植原)珠樹・中島比 呂美(農研機構・遺伝資源センター)
10 : 54	126 山口県のコムギに発生した葉枯れ症の 原因 ○吉岡陸人・角田佳則(山口農林総技 セ)	226 日本植物病名目録に掲載される Pythium 属病原菌の分類の変遷・再同 定について ○埋橋志穂美・青木孝之・中島比呂美・ 山﨑 幸(農研機構・遺伝資源セ)
11:06	127 コムギ赤かび病感染予測システム Ver.1 の開発 ○中島宏和¹・萬田 等¹・山下 亨²・ 豊嶋悟郎¹ (¹長野農試・²長野野花試 佐久支場)	227 日本産ソルガム麦角病菌の系統解析と 近縁種の分類学的考察 ○田中栄爾 ¹ ・棚田一仁 ¹ ・月星隆雄 ² ・ 高井智之 ³ ・原田幸雄 ⁴ (¹ 石川県立大・ ² 農研機構/西日本農研・ ³ 九沖農研・ ⁴ 弘前市)
11:18	128 トウモロコシすす紋病菌の侵入に必要な葉面濡れ時間 ○岡部郁子(農研機構・畜産研究部門)	228 Population Structure Analysis of Phytophthora nicotianae in Japan ■ Afandi, A. ¹, Borjigen, C. ², Suga, H. ³, and Kageyama, K. ² (¹UGSAS, Gifu University, ²River Basin Res. Center, Gifu Univ, ³Life Sci. Res. Center, Gifu Univ)
11:30	129 座長 Saccharin suppresses fungal penetration on Arabidopsis thaliana through enhanced expression of defense-related genes ● Phuong, L.T.¹, Matsui, H.¹, Noutoshi, Y.¹, Yamamoto, M.¹, Ichinose, Y.¹, Shiraishi, T.¹,², and Toyoda, K.¹ (¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²RIBS Okayama)	229 Characterization of Egyptian Phytophthora infestans population using microsatellite markers ■ Arafa, R.A. ^{1,3} , Kamel, S.M. ¹ , Moussa, O.M. ² , Soliman, N.E.K. ² , and Shirasawa, K. ³ (¹ PPRI, ARC, ² PPD, Fac. of Agri., Cairo Univ., ³ KDRI)
11:42	The mode of action of endogenous suppressor(s) in <i>Arabidopsis thaliana</i> ■ Mai, T.L.¹, Kawasaki, T.¹, Aprilia, N.F.¹, Matsui, H.¹, Noutoshi, Y.¹, Yamamoto, M.¹, Ichinose, Y.¹, Shiraishi, T.¹.², and Toyoda, K.¹ (¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²RIBS Okayama)	230 異質二倍体 Verticillium longisporum の ミトコンドリア DNA の起源 ●正田亮平・山口実那・山口友輔・藤 村 真(東洋大生命)

第3会場	第4会場	第5会場
325 土壌理化学性から見たダイズ黒根腐病 の発病要因 ○三室元気 ^{1,2} ・青木由美 ² ・関原順子 ² ・ 蛯谷朋佳 ³ ・赤松 創 ⁴ ・越智 直 ⁵ ・ 守川俊幸 ² (「農研機構・中央農研・ ² 富山農総セ・農研・ ³ 富山農技・広域 普指セ・ ⁴ 農研機構・中央農研・北陸 研究拠点・ ⁵ 農研機構・経営戦略室)	425 座長 カブモザイクウイルスの同義置換部位 を用いた塩基置換速度および分岐年代 の推定 ○八坂亮祐 ^{1,2} ・大島一里 ^{1,2} (¹ 佐賀大 農・ ² 鹿児島大院連農)	525 生育期の銅水和剤散布によるモモせん 孔細菌病の抑制効果 ○永井裕史・三宅律幸(愛知農総試)
326 品種あるいは播種時期が飼料用トウモロコシのかび毒フモニシンの蓄積に及ぼす影響 〇笹谷孝英 ¹ ・川上 顕 ² ・加藤直樹 ² ・松倉啓一郎 ² ・井上博喜 ² ・平八重一之 ² ・宮坂 篤 ² (¹ 農研機構本部・ ² 農研機構九州沖縄農研)	426 レンゲ委縮ウイルスの環状ゲノムにみられる多様性について ○佐野義孝 ¹ ・Muhammad Kamal Uddin ^{1,2} ・高濱有沙 ¹ (¹ 新潟大学農学 部・ ² バングラデシュ農業大学)	526 モモせん孔細菌病の落葉痕への感染時期と秋季防除の効果 ○江口直樹 ¹ ・横澤志織 ¹ ・山田一成 ² ・加藤秀一 ¹ (¹ 長野県果樹試験場・ ² 長野県農業大学校)
327 実験的低温化温水処理における白紋羽 病菌菌糸圏細菌および真菌群集の変動 解析 ●田森悠美 ¹ ・勝山千恵 ² ・于 遥 ² ・ 中村 仁 ³ ・久我ゆかり ² (¹ 広大総科・ ² 広大院総科・ ³ 農研機構果樹茶部門)	427 Plum bark necrosis stem pitting associated virus と Little cherry virus 2 の感染がウメ果実肥大に及ぼす影響について ○沼口孝司¹・中畝良二²・武田知明³(¹和歌山果樹試うめ研・²農研機構果樹茶研・³和歌山那賀農水振)	527 愛知県豊橋市におけるモモせん孔細菌 病の春型枝病斑の早期切除による防除 技術の体系化に向けた調査結果 ○堀川英則 ¹ ・伊藤涼太郎 ¹ ・永井裕 史 ¹ ・森 敬子 ¹ ・武山桂子 ¹ ・中畝良 二 ² ・三宅律幸 ¹ (「愛知農総試・ ² 農研 機構果樹茶業部門)
328 白紋羽病菌と菌糸圏から分離された微 生物間の相互作用における温度の影響 于 遥 ¹ ・田森悠美 ² ・勝山千恵 ¹ ・中村 仁 ³ ・○久我ゆかり ¹ (「広大院総科・ ² 広大総科・ ³ 農研機構果樹茶部門)	428 座長 ビート西部萎黄ウイルス (BWYV) に対する抵抗性育種素材の開発 ○上田重文 ¹ ・黒田洋輔 ¹ ・岡崎和之 ¹ ・ 松平洋明 ¹ ・田口和憲 ¹ ・高橋宙之 ² (¹ 農研機構・北農研・ ² 農研機構・本部)	528 座長 青枯病の化学防除を志向したクオラム クエンチング法の開発 ●吉原彩華 ¹ ・嶋谷美香 ¹ ・曳地康史 ² ・ 甲斐建次 ¹ (¹ 阪府大院・生命環境・ ² 高知大・農)
329 座長 発光バクテリアを用いた遊離サリチル 酸のハイスループット定量系について 柴田詩織 ¹ ・○田中景子 ² ・養田恵美 子 ¹ ・梶 翔太 ¹ ・小倉里江子 ¹ ・尾形 信一 ¹ ・平塚和之 ¹ (¹ 横国大院環情・ ² 横国大理工)	429 圃場検定および CAP11 SNP のジェノ タイピング解析による小麦遺伝資源の 萎縮病抵抗性評価 ○堀田治邦 ¹ ・鈴木孝子 ² ・鈴木千賀 ¹ ・ 林 和希 ¹ ・山下陽子 ¹ ・小倉玲奈 ¹ (¹ 道総研中央農試・ ² 北海道庁)	529 トマト細菌性病害に対する各種消毒資 材の二次伝染抑制効果 ○渡辺秀樹 ¹ ・村元靖典 ¹ ・棚橋寿彦 ¹ ・ 中保一浩 ² (「岐阜農技セ・ ² 農研機構・ 中央農研)
330 ジャスモン酸応答性遺伝子の発現を誘導する新規化合物の特徴づけについて ○小倉里江子 ¹ ・阿部義弘 ¹ ・根岸紘 生 ² ・平塚和之 ¹ (¹ 横国大院環情・ ² 横 国大理工)	430 タバコモザイクウイルスエリシターに 対する応答における抵抗性遺伝子 <i>N</i> のタンパク質とイントロンの役割 ●多久和夫 ¹ ・岡村	530 GABA は <i>Pseudomonas protegens</i> の浮遊状態を促進する ○竹内香純 ¹ •Dieter Haas ² (¹ 農研機構・ 生物機能・ ² ローザンヌ大)

■第2日目午前

■ 第2日日下則		
4月27日(木)	第1会場	第2会場
11 : 54	131 エンドウならびにシロイヌナズナにおける PAMP 誘導性細胞外オキシダティブバースト反応の分子機構 片岡千香子 ¹ ・三木紅葉 ² ・山﨑史織 ² ・松尾実佳 ¹ ・松井英譲 ^{1,2} ・能年義輝 ^{1,2} ・山本幹博 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・白石友紀 ^{1,2,3} ・〇豊田和弘 ^{1,2} (¹ 岡大農・ ² 岡大院環生・ ³ 岡山生物研)	231 座長 ゲノムを切らずに書き換えるイネいも ち病菌における新規ゲノム編集 ○荒添貴之¹・西田敬二¹・田畑麻由 良¹・平岡大輝²・中馬いづみ²・土佐 幸雄²・近藤昭彦¹(¹神大院イノベー ション・²神大院農)
12:06	132 Studies on molecular mechanism involved in hypervirulence of <i>Colletotrichum orbiculare</i> RSCO-09-1-2 strain ○井上喜博¹・Pamela Gan²・鳴坂義 弘³・白須 賢²・高野義孝¹(「京大院農・²理研 CSRS・³岡山生物研)	232 CRISPR/Cas9 システムを利用した相 同組換えによる多重遺伝子同時改変の 試み ●飯田 藍¹・大和 澄¹・荒添貴之²・ 大里修一¹・桑田 茂¹ (¹明治大院農・ ²神戸大院イノベーション)
12:18	133 Colletotrichum higginsianum 系統間の 大規模ゲノム構造変異 ○津島綾子 ^{1,2} ・Pamela Gan ² ・熊倉直 祐 ² ・鳴坂真理 ³ ・高野義孝 ⁴ ・鳴坂義 弘 ³ ・白須 賢 ^{1,2} (¹ 東大院理・ ² 理研 CSRS・ ³ 岡山生物研・ ⁴ 京大院農)	233 イネ科植物いもち病菌における転移因子 MAGGY の特異的メチル化機構の解析 グエン クィット・ブー バー・近藤友貴・〇中屋敷均(神戸大学農学研究科)

第3会場	第4会場	第5会場
331 ルシフェラーゼ融合タンパク質を用い たジャスモン酸経路因子の <i>in planta</i> モニタリング ●石田浩高・小倉里江子・平塚和之(横 国大環情)	431 転写物の蓄積とウイルス感染抑制における抵抗性遺伝子 N のイントロンの 役割 ●池田千紘 ¹ ・山家美歩 ¹ ・佐々木信 光 ² ・丹生谷博 ² (¹ 農工大・ ² 農工大遺 伝子)	531 Microbacterium 属細菌によるキノコ腐敗病毒素 tolaasin 解毒機構 ●富田 駿¹・篠原弘亮²・横田健治¹ (¹東京農大生応化・²東京農大農)
332 菌の脂肪酸代謝物(BMFA)による植物病害防除について(1) ○大野勝也(イビデン)	432 Brome mosaic virus (BMV) 抵抗性に関わる NB-LRR 型イネ遺伝子の品種間比較 ●大矢卓明¹・新田浩志¹・徐 铨¹,²・安田加奈子¹・寺石政義¹・海道真典¹・奥野哲郎¹,³・高野義孝¹・奥本 裕¹・三瀬和之¹ (¹京大院農・²瀋陽農大院農・³龍谷大農)	532 座長 切り取り葉を用いたキウイフルーツかいよう病 biovar3 に対する各品種の抵抗性評価 ○生咲 巖¹・遠藤温子¹・片岡郁雄²・秋光和也²・五十嵐千佳²・濱野康平²・福田哲生³・水谷亮介³・真鍋徹郎³(「香川農試防除所・²香川大農・³香川府中果樹研)
333 菌の脂肪酸代謝物 (BMFA) による植 物病害防除について (2) ○野原偏弘・横田晃章・高田久美子・ 大野勝也 (イビデン (株))	433 Studies to clarify the varietal differences on reaction to <i>Rice yellow mottle virus</i> at different inoculation timing ■ Odongo, P. ^{1,5} , Kajihara, K. ² , Kojima, N. ^{1,3} , Tsuboi, T. ⁴ , Asea, G. ¹ , and Natsuaki, K.T. ⁵ (¹National Crops Resources Research Institute (NaCRRI)-Uganda, ²Former JOCV, ³Appropriate Agriculture Technology Co., ⁴JICA, ⁵GSA-Tokyo University of Agriculture)	533 機械学習によるイネもみ枯細菌病菌及 びイネ苗立枯細菌病菌のタイプ III エ フェクターの同定 ①秋本千春 ¹ ・沼 寿隆 ² (¹ 農研機構 生物機能利用研究部門・ ² 農研機構 高 度解析センター)

■弗2口日十俊	65 A 15	
4月27日(木)	第1会場	第2会場
13:30	134 座長 イネいもち病抵抗性遺伝子 Pita-2 及び Pi19 は新規な構造のタンパク質を コードする ○高橋 章・林 長生・廣近洋彦(農 研機構生物機能部門)	234 座長 トマト葉かび病菌の殺菌剤耐性検定 ○窪田昌春 ¹ ・染谷信孝 ¹ ・田村 收 ² (¹ 農研機構野花研・ ² 徳島農総技支セ)
13:42	135 Pb1 抵抗性は少なくとも 4 つの QTL に依存する ○井上晴彦・福岡修一・水林達実・林 長生(農研機構)	235 三重県における新規 SDHI 剤フルオピ ラム耐性灰色かび病菌の発生確認 ○川上 拓・鈴木啓史・黒田克利(三 重農研)
13 : 54	136 窒素施肥によるイネのいもち病発病度 は圃場抵抗性遺伝子に依存する ○鬼頭英樹 ¹ ・光永貴之 ² (「農研機構・ 本部・ ² 農研機構・中央農研)	236 高知県の冬春栽培キュウリにおけるボスカリド耐性褐斑病菌の遺伝子診断法 ○山崎睦子・岡田知之(高知農技セ)
14:06	137 イネのいもち病圃場抵抗性遺伝子の葉 齢による発病抑制効果の違い ○安田伸子・光永貴之(農研機構・中 央農研)	237 高知県のナスすすかび病耐性菌における同系統薬剤への交差耐性 ○岡田知之・矢野和孝(高知県農業技術センター)
14:18	138 植物病原糸状菌の二次代謝産物テヌア ゾン酸は宿主の抵抗性を誘導する ○柏 毅・本山高幸・長田裕之(理研 CSRS)	238 新規 SDHI 殺菌剤イソピラザムの生物 特性 (2) ーネクスター® フロアブル の各種病害に対する効果特性ー ○大田原真祐・深見泰弘・蓮沼奈香子・ 冨江哲也(日産化学工業株式会社)
14:30	139 小型草本モデル植物ミナトカモジグサ を用いた紋枯病抵抗性系統の探索とそ の特徴付け ○香西雄介 ^{1,2,3} ・持田恵一 ^{1,3,4} ・恩田 義彦 ^{1,3} ・能年義輝 ² (¹ 理研 CSRS・ ² 岡大院環境生命・ ³ 横市大木原研・ ⁴ 岡大植物研)	239 座長 静岡県で分離されたチャ炭疽病菌の DMI 剤に対する感受性 ○外側正之 ¹ ・芳賀 一 ² ・古木孝典 ² ・ 古橋実佳 ³ (¹ 静岡農技研茶研センター・ ² 静岡防除所・ ³ 静岡農林大茶分校)

第3会場	第4会場	第5会場
334 座長 希少糖の植物への作用 (44): 希少糖 をリン酸化する OsHXK6 の糖結合領 域の解析 ●松平一志¹・加野彰人¹・馬越史奈¹・ 望月 進¹・大谷耕平²・福元健志¹・ 吉原明秀¹・何森 健¹・小原敏明³・ 重松由夫³・石田 豊⁴・神鳥成弘⁵・ 吉田裕美⁵・市村和也¹・五味剣二¹・ 秋光和也¹(¹香川大農・²松谷化学工 業・³三井化学アグロ・⁴四国総研・ 5香川大医)	434 座長 アシベンゾラル -S- メチルは植物 RNA ウイルスの 2 つの異なる感染段 階を抑制し、その効果はウイルス種により異なる ● 松尾優希¹・鈴木健央¹・寺岡 徹²・ 有江 力¹・小松 健¹ (¹農工大院農・ ²農工大環安セ)	534 座長 エンドソームー液胞融合過程を介した シロイヌナズナの感染防御応答の負の 制御機構の解析 羽山大介¹・大滝 幹¹・筒井友和²・ 北畑信隆¹,3・花俣 繁³・来須孝光³,4・ 海老根一生²・上田貴志²・○朽津和 幸¹,3(¹東京理科大理工・²基生研細胞 動態・³東京理科大イメージングフロ ンティア・⁴東京工科大応用生物)
335 希少糖の植物への作用(45): Itea 属 植物(ズイナ)における希少糖 D-allose のリン酸化は hexokinase によ り引き起こされる ●辻 則夫・望月 進・大谷耕平・松 平一志・島上卓也・吉原明秀・何森 健・ 市村和也・五味剣二・秋光和也(香川 大農)	435 アシベンゾラル S メチルは植物における SGT の転写活性を抑制する ●小林優大 ¹ ・増山翔太 ² ・荻原 毅 ² ・ 松浦英幸 ² ・増田 税 ² ・竹下 稔 ¹ (¹ 宮崎大農・ ² 北大院農)	535 イネ白葉枯病菌の hrp 制御因子 HrpX の蓄積抑制に関与する LacI 型転写制 御因子 XyIR の制御様式 ○伊川有美・津下誠治(京府大院生環)
336 シロイヌナズナにおける植物 - 細菌相 互作用現場の可視化 ○別役重之・石賀貴子・石賀康博・野 村暢彦(筑波大学生命環境系)	436 トマトモザイクウイルスの複製タンパ ク質と移行タンパク質はタバコの膜タ ンパク質レモリンの凝集体形成を引き 起こす ● 髙島永太 ¹ ・佐々木信光 ² ・丹生谷 博 ² (¹ 農工大院農・ ² 農工大遺伝子)	536 座長 L-メチオニンによるトマト斑葉細菌病の抑制効果について ●山本優紀・齋藤まどか・阿久津克己・中島雅己(茨城大農)
337 PRR 複合体の新規因子 REAL1 は PAMP 情報伝達系を負に制御する ●後藤幸久 ^{1,2} • 門田康弘 ¹ • 松井英 譲 ^{1,4} • Jan Sklenar ³ • Paul Derbyshire ³ • Frank Menke ³ • 中神弘史 ^{1,5} • Cyril Zipfel ³ • 白須 賢 ^{1,2} (¹ 理研 CSRS • ² 東大院理 • ³ 英国セインズベリー研究所 • ⁴ 岡山大院環境生命科学 • ⁵ マックスプランク植物育種学研究所)	437 ポティウイルスに対するキュウリ劣性 抵抗性における Vps4 の関与 ● 奥畑徹之 ¹ ・前田孟徳 ¹ ・森住 周 ¹ ・ 矢口裕之 ¹ ・嶋田拓実 ¹ ・大谷晃範 ¹ ・ 天野政史 ² ・藤田佳克 ¹ ・井村喜之 ¹ (¹ 日大生物資源・ ² 埼玉原種)	537 ASGV 感染したカンキツ葉では Xanthomonas citri subsp. citri に対する 感受性は高まる 岩井彩葉 ¹ ・柏原美紗子 ² ・岡野夕香 里 ³ ・○平田久笑 ¹ (¹ 静岡大院農・ ² 静岡大院創造・ ³ 東大院農)
338 静岡県内で分離されたワサビ軟腐病菌 の溶菌性バクテリオファージについて ●柏原美紗子 ¹ ・大津菜文 ² ・青木雄 太 ² ・平田久笑 ² (¹ 静岡大院創造・ ² 静 岡大農)	438 トマト植物の全身壊疽誘導に必要な Rehmannia mosaic virus 日本株の移行 タンパク質における領域 ●浜田拓弥・木場章範・曵地康史(高 知大農)	538 青枯病菌 RipP1 はナス台木トルバム ビガーに認識されるマイナーな非病原 カエフェクターである ○向原隆文・中野真人・小田賢司(岡 山生物研)
339 座長 Biological characteristic of novel Broad- spectrum SDHI "Isopyrazam" (1) The unique chemical & biological property ○ Tan, M., and Nakajima, Y. (Syngenta Japan K.K.)	439 座長 翻訳開始因子 eIF4E アイソフォーム nCBP を欠損したシロイヌナズナでは plantago asiatica mosaic virus の感染 が遅延する ●遊佐 礼¹・桂馬拓也¹・薦田 (萩原) 優香²・橋本将典¹・細江尚唯¹・渡邉 聖斗¹・根津 修¹・山次康幸¹・難波 成任¹ (¹東大院農・²酪農大農食環境)	539 植物の自然免疫を抑制する青枯病菌エフェクターの同定と機能解析 〇中野真人・小田賢司・向原隆文(岡山生物研)

■第2日日午後		
4月27日(木)	第1会場	第2会場
14:42	140 座長 キャベツ萎黄病菌 Fusarium oxysporum f. sp. conglutinans の生育および病原性 に関与する小型染色体の水平伝播 ●鮎川 侑¹・小松 健²・Martijn Rep³・有江 力²(¹農工大院連農・ ²農工大院農・³アムステルダム大)	240 青森県におけるリンゴ黒星病菌の DMI 剤に対する薬剤感受性の実態と 変化 ○平山和幸・花岡朋絵・赤平知也(青 森産技セりんご研)
14:54	141 感染植物のプロテオーム・トランスク リプトーム解析によるメロンつる割病 菌の病原性関連遺伝子の同定 ●范 環 ¹ ・松本敏幸 ¹ ・大空 岳 ¹ ・ 桑田啓子 ² ・森 仁志 ¹ ・花田耕介 ³ ・ 柘植尚志 ¹ (「名大院生農・ ² 名大 ITbM・ ³ 九州工大生物情報)	241 イネいもち病菌の Qol 耐性変異ミト コンドリア定量系の構築 ●児玉 葵 ¹ ・阿部 歩 ¹ ・内橋嘉一 ² ・ 鬼頭英樹 ³ ・曾根輝雄 ¹ (¹ 北大院農・ ² 兵庫農技総セ・ ³ 農研機構・本部)
15:06	142 Arabidopsis ERF71/73 genes are involved in the disease resistance against Fusarium graminearum ■ Yelli, F., Kato, T., and Nishiuchi, T. (Kanazawa Univ., ASRC)	242 宮城県における Qol 剤耐性イネいも ち病菌の分布拡大要因の推定 ○櫻田史彦 ¹ ・辻 英明 ¹ ・宮野法近 ¹ ・ 鈴木文彦 ² (¹ 宮城古川農試・ ² 農研機構・ 中央農研)
15 : 18	143 Barley HvGST13 and HvGR2 Genes are Involved in the Detoxification of Fusarium-Producing Trichothecene Mycotoxin ■ Wahibah, N.N.¹, Tamaoki, D.¹, Sato, K.², and Nishiuchi, T.¹ (¹Kanazawa Univ., ASRC, ²Okayama Univ)	243 イネいもち病菌の MBI-D 剤耐性変異 の LAMP-FLP 法による検出 ○鈴木啓史 ¹ ・川上 拓 ¹ ・黒田克利 ¹ ・ 牧 文典 ² ・木谷雅和 ² ・鈴木文彦 ³ (¹ 三重農研・ ² ニッポンジーン・ ³ 農研 機構中央農研)
15:30	144 Botrytis cinerea の病原性発現における カタラーゼの役割について ●青木和香¹・國府田こごみ¹,²・中島 雅己¹・阿久津克己¹(¹茨城大農・ ² 現 アグロ カネショウ(株))	244 座長 食品添加物によるカンキツ貯蔵病害の 軽減効果 ○加藤光弘 ¹ ・石井香奈子 ² ・影山智津 子 ¹ ・中村茂和 ¹ (¹ 静岡農林研果研セ・ ² 静岡西部農林)
15 : 42	145 アスパラガス属野生種から分離された Phomopsis 属菌の病理観察と酵素生産 性について 山根 南 ¹ ・池内隆夫 ² ・森 充隆 ² ・ 村上恭子 ² ・浦上敦子 ³ ・菅野 明 ⁴ ・ 尾崎行生 ¹ ・飯山和弘 ¹ ・古屋成人 ¹ ・ ○松元 賢 ⁵ (¹ 九大院農・ ² 香川農試・ ³ 農研機構・ ⁴ 東北大院生命科学・ ⁵ 九 大熱研セ)	245 カンキツ果実への鮮度保存被膜剤塗布によるカンキツ緑かび病および青かび病の発病抑制効果 ○村本和之・兼常康彦・西岡真理(農林総合技術センター 柑きつ振興センター)

第3会場 第4会場 第5会場 340 440 540 座長 ピラジンカルボキサミド系殺菌剤ピラ 花器官の葉化誘導因子ファイロジェン nCBP はポテックスウイルスの移行タ ジフルミド (パレード®) に関する研 ンパク質 TGBp2 および TGBp3 の蓄 は異なる複数の科の植物に葉化を誘導 究(第2報) -基本性能および作用特 積を介してウイルスの細胞間移行に寄 する ●岩渕 望¹・北沢優悟¹・鯉沼宏章¹・ 性一 与する ●細江尚唯¹•游佐 礼¹•桂馬拓也¹• 二條貴通1•吉田哲也1•吉川信幸2• ○長谷部元宏・黒木信孝・中村貴弘・ 岡田 敦 • 馬場康治 • 菊武和彦 • 伯野 薦田 (萩原) 優香²·橋本将典¹·藤本 前島健作1•大島研郎3•難波成任1 祐司1•関村紘代1•山次康幸1•難波 (1東大院農・ 2 岩手大農・ 3 法政大植医) 史明 (日本農薬株式会社) 成任1(1東大院農・2酪農大農食環境) 341 541 ピラジンカルボキサミド系殺菌剤ピラ ファイロジェンは広範な植物の plantago asiatica mosaic virus に対す ジフルミド (パレード R) に関する研 るシロイヌナズナ劣性抵抗性遺伝子の MADS ドメイン転写因子の分解を誘 究(第3報) ―各種生物種由来ミトコ ファインマッピング 導する ●渡邉聖斗¹・遊佐 礼¹・橋本将典¹・ ○北沢優悟1・岩渕 望1・渡邉聖斗1・ ンドリアにおける SDH 阻害活性― 煉谷裕太朗^{1,2}·藤本祐司¹·吉田哲 鯉沼宏章1•丹野和幸1•二條貴通1• ○岡田 敦・黒川典美・中村貴弘・山 也1·前島健作1·山次康幸1·難波成 前島健作1•大島研郎2•難波成任1 下真生(日本農薬株式会社) (1東大院農・2法政大植医) 任1(1東大院農・2宇都宮大農) 542 342 442 新規殺菌剤オキサチアピプロリン イネ苗立枯細菌病菌 Burkholderia plantago asiatica mosaic virus に対す (ゾーベックエニケード®) に関する るシロイヌナズナ劣性抵抗性遺伝子 plantarii のトロポロン産生能に関わる 研究(第2報)ジャガイモ疫病菌に対 EXA1 の遺伝子構造解析 遺伝子の探索 する作用特性 ●藤本祐司¹・橋本将典¹・游佐 礼¹・ ●石曽根翔子¹・畔上耕児²・濱本 煉谷裕太朗^{1,2}·吉田哲也¹·岡野夕香 誠1・久池井豊2(1丸和バイオケミカ 里1·前島健作1·山次康幸1·難波成 研機構 野菜茶研) 任1(1東大院農・2宇都宮大農) ル株式会社・2デュポン・プロダクショ ン・アグリサイエンス株式会社) 343 座長 ナシ黒星病菌の DMI 剤耐性菌にみら シロイヌナズナの EXA1 欠損により 野菜類軟腐病菌 Pectobacterium れる CYP51 遺伝子の変異 plantago asiatica mosaic virus の感染 carotovorum subsp. odoriferum の病原

○石井英夫^{1,2} • Hans J. Cools³ • 西村 久美子1·村上二朗2(1農環研·2吉備 国際大・3シンジェンタ)

344

福岡県の Ool 剤耐性イネいもち病菌 発生ほ場における Ool 系本田散布剤 と他系統薬剤を組合せた体系防除の効

○石井貴明・菊原賢次(福岡県農林業 総合試験場)

次亜塩素酸水によるイチゴ炭疽病の挿 し苗伝染防止効果

○森 充降·西村文宏(香川農試)

は細胞レベルで阻害される

●吉田哲也¹·橋本将典¹·遊佐 礼¹· 煉谷裕太朗^{1,2}·岩渕 望¹·根津 修¹· 前島健作1・山次康幸1・難波成任1 (¹東大院農・²宇都宮大農)

plantago asiatica mosaic virus の宿主 因子 EXA1 および nCBP の欠損によ るウイルス抵抗性スペクトラム

○橋本将典¹・桂馬拓也¹・煉谷裕太 朗^{1,2}·遊佐 礼¹·細江尚唯¹·鯉沼宏 章¹·根津 修¹·山次康幸¹·難波成 任1(1東大院農・2宇都宮大農)

445 座長

オオバコモザイクウイルス複製酵素の 膜局在性に関わる両親媒性ヘリックス の特定と NMR による構造解析

○小松 健¹・大島研郎²・渡部 暁³・ 木川隆則³·栃尾尚哉⁴·橋本将典⁵· 山次康幸5•難波成任5(1農工大院農• ²法政大植物医科•³理研 OBiC•⁴広島 大院理・5東大院農)

性因子の探索

●髙松由希菜•濱本 宏•大島研郎(法 政大植医)

544 座長

植物免疫シグナル伝達におけるシロイ ヌナズナ MKK3 上流因子の解析 永田雅也1·松村美里1·中村雅子1· 瀧澤 香 2 · 松岡大介 3 · 白須 賢 2 · ○市村和也1(1香大院農・2理研 CSRS·³神大院農)

545

MEK2^{DD} による HR 様細胞死を抑制 する青枯病菌エフェクター clone42 の 機能解析

●小坂沙波1•佐藤幹也1•田口義人1• 吉岡博文2・秋光和也1・市村和也1 (1香大院農・2名大院農)

■ 寿 2 口 日 干 俊 4 月 27 日 (木)	第1会場	第2会場
15:54		
15 . 54	146 座長 植物のリン欠乏適応応答を介した内生 糸状菌 Colletotrichum tofieldiae の感染 制御 ○晝間 敬 ^{1,4} · Bednarek Pawel ² · 田 中啓介 ³ · 太治輝昭 ³ · 西條雄介 ^{1,4} (¹ 奈良先端大学・ ² ポーランド科学ア カデミー・ ³ 東京農業大学・ ⁴ JST さき がけ)	246 千葉県におけるナシ収穫直前のキャプタン水和剤による果面汚れ軽減を目的とした「まくぴか」展着剤の利用 ○金子洋平・福田 寛(千葉農林総研)
16:06	147 リン枯渇条件における糸状菌感染に対する植物の免疫応答 ●田中 碧¹・李 泰洪¹・晝間 敬¹,2・西條雄介¹,2 (¹奈良先端大 バイオサイエンス研究科・²さきがけ)	247 ナシ黒星病およびナシ黒斑病に対する 亜リン酸肥料の発病抑制効果 田中 第 ¹ ・○山田高之 ¹ ・三木祥平 ^{1,2} (¹ 鳥取園試・ ² 現:奈良中部農林振興 事務所)
16:18	148 ジャガイモへの病原性を失った Botrytis cinerea 変異株群のリシチン代 謝能の解析 ●黒柳輝彦・小鹿 一・佐藤育男・千 葉壮太郎・川北一人・竹本大吾(名大 院生農)	248 パインアップル小果腐敗病に対する有 効薬剤の選抜と防除効果(第2報) ○山城麻希 ¹ ・竹内誠人 ² ・諸見里知 絵 ² ・大城 篤 ¹ ・安次富厚 ¹ (¹ 沖縄農 研セ・ ² 沖縄農研セ名護)
16:30	149 イネ科牧草共生菌 <i>Epichloë</i> エンドファイトの有用菌株作出法の確立: 擬似有性生殖により作出した Hybrid 菌株の形質の安定性の解析 ●三浦里佳¹・磯部仁美¹・増中 章²・菅原幸哉²・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・川北一人¹・田中愛子¹・竹本大吾¹(¹名大院生農・²農研機構)	249 座長 デイゴ (Erythrina variegata) 衰退枯 死の原因は Fusarium solani 種複合体 に属する糸状菌である ○黒田慶子¹・木原健雄¹・中馬いづ み¹・村上 翼¹・高階空也¹・平岡大 輝¹・亀山統一²(¹神大院農・²琉大農)
16:42	150 転写補助因子 SNI1 と NPR1 による WRKY 転写因子を介した SA 応答性 遺伝子発現制御機構の解析 清水琴恵¹・野元美佳¹・○福井大和¹・ 板谷知健¹・森 毅¹・時澤睦朋²・山 本義治²・塚越啓央³,4・多田安臣¹,5 (¹名大院理・²岐大応生・³名城大農・ ⁴JST さきがけ・⁵名大遺伝子)	250 長崎県における秋作ジャガイモの欠株 に関与する Fusarium 属菌 ●大澤 央¹・坂本 悠²・秋野聖之¹・ 近藤則夫¹ (¹北大院農・²長崎農技セ)
16 : 54	151 座長 Podosphaera leucotricha によるモモう どんこ病の発生生態と防除 ○横澤志織・岡沢克彦・江口直樹(長 野県果樹試)	251 幼苗検定-最確値法による感染源ポテンシャル値(IPU)は土壌中の病原菌 DNA 量よりも効果的に感染源量を推定する ○宍戸雅宏¹・國友映理子²・横山とも子²・牛尾進吾²(¹千葉大院園・2千葉農林総研セ)

第3会場	第4会場	第5会場
346 キュウリ地上部病害の発生様相に基づいた殺菌剤散布による発生軽減効果 ○大場淳司(宮城農園研)	446 オオバコモザイクウイルス複製酵素の 両親媒性ヘリックスへの変異導入によるウイルス複製および膜局在性への影響 ● 増島侑紀¹・鈴木健央¹・佐々木信 光²・有江 力¹・小松 健¹ (¹農工大 院農・²農工大遺伝子)	546 ジャスモン酸によって誘導されるイネ 白葉枯病抵抗機構において重要な転写 因子 JMTF1 の役割 ●宇治雄也 ¹ ・藤井ゆみ ² ・桐生昌樹 ² ・ 山田祥子 ² ・宍戸穂高 ² ・秋光和也 ^{1,2} ・ 五味剣二 ^{1,2} (¹ 愛媛連大・農・ ² 香川大・ 農)
347 座長 セイヨウナシ褐色斑点病に対する有効 薬剤の選定 (2) ○棚橋 恵¹・堀川拓未¹・佐藤秀明¹・ 藤巻伸一¹・大崎(岡) 久美子²(¹ 新 潟農総研園芸研・²鳥取大農)	447 Red clover necrotic mosaic virus (RCNMV) 移行タンパク質 (MP) のアラニン置換変異が細胞内局在とウイルスの細胞間移行に及ぼす影響の解析北尾晃一・三瀬和之・高野義孝・○海道真典(京都大学)	547 ジャスモン酸シグナル制御因子である OsNINJA1 のイネ白葉枯病抵抗性機構 における役割 ●柏原啓太 ¹ ・岡本祐季 ¹ ・宇治雄也 ² ・ 谷口しづく ² ・秋光和也 ^{1,2} ・五味剣 ニ ^{1,2} (¹ 香川大学農学部五味研究室・ ² 愛媛連大・農)
348 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究(第7報)ートルプロカルブ処理イネいもち病菌分生子の病原性と生存能カー ○萩原寛之・安楽城夏子・櫻井誠也・明瀬智久・小原敏明(三井化学アグロ)	448 ラズベリー黄化ウイルス(RBDV)の ゲノムにコードされる 1b 遺伝子の機 能解析 ●松平昂士・志村拓哉・吉川信幸・磯 貝雅道(岩手大農)	548 座長 Subtilisin-like protease は植物病原細菌 に対する抵抗性を正に制御する ○浅井秀太 ^{1,2} ・Jingni Wu ³ ・津田賢 ー ³ ・白須 賢 ² (「JST さきがけ・ ² 理 研 CSRS・ ³ マックスプランク研究所)
349 チオファネートメチル (T)・ジエト フェンカルブ (D) 耐性キュウリ褐斑 病菌に対する D・T 水和剤 (D・T 剤) の防除効果 ○畔栁泰典・矢尾幸世 (岡山農研)	449 ジャガイモ S ウイルス感染性 cDNA クローンの構築 ●李 莘・畑谷達児(北大院農)	549 植物免疫応答を抑制する低分子阻害剤 の作用機構解析 ○石濱伸明 ¹ ・能年義輝 ² ・崔 勝媛 ³ ・ Ivana Saska ¹ ・浅井秀太 ¹ ・白須 賢 ¹ (¹ 理研 CSRS・ ² 岡大院環境生命・ ³ 国 際基督教大学・教養・自然科学)
350 ブロッコリー黒すす病に対する防除薬 剤と防除適期の検討 ○西村文宏・森 充隆(香川農試)	450 Tomato chlorosis virus がコードするタンパク質の機能解析 ●益子嵩章¹・王 蔚芹²・西川尚志²・夏秋知英²(¹農工大院連農・²宇都宮大農)	550 HR 細胞死制御因子"MARK1"は Processing body と関連した機能を有する ○松井英譲 ^{1,2} ・野村有子 ¹ ・玄 康 洙 ¹ ・濱田隆宏 ³ ・渡邉雄一郎 ³ ・上田 貴志 ^{4,5} ・中神弘史 ^{1,6} (「理研 CSRS・ ² 岡山大院環生・ ³ 東大院総合文化・ ⁴ 基生研・ ⁵ さきがけ・ ⁶ マックスプラ ンク研究所)
351 座長 新規殺菌剤イソフェタミド(ケンジャ®) に関する研究 〜第6報 多剤耐性菌へ の効果 ○阿部ゆずか・小森冴香・三谷 滋(石 原産業(株)中研)	451 座長 2b タンパク質をトマトアスパーミィウイルスに置換したラッカセイ矮化ウイルスの <i>Nicotiana benthamiana</i> における壊死因子の解析 小田訓久¹・○井上創太¹・根津 修²・字垣正志¹・鈴木 匡¹(¹東大院新領域・²東大院農)	551 flg22 に応答した MAP キナーゼの活性化を制御する MAPKKK の同定 ○山口公志・小林友華・深溝 慶・川崎 努(近大院農)

■第2日目午後		
4月27日(木)	第1会場	第2会場
17:06	152 リンゴ樹上で越冬する炭疽病菌 Colletotrichum acutatum の生活環 ○猫塚修一 ¹ ・田中和明 ² ・佐野輝男 ² (¹ 岩手農研・ ² 弘前大農生)	252 LAMP 法を用いた Phytophthora nicotianae の特異的検出 ○日恵野綾香¹・大坪佳代子¹・李 明 珠²・須賀晴久³・景山幸二¹(¹岐大流 域研セ・²中国陝西師範大・³岐大生命 セ)
17:18	153 わが国における南根腐病の発生現状と宿主植物 ○佐橋憲生¹・秋庭満輝¹・石原 誠²・ 太田祐子³・升屋勇人⁴・服部 力¹・ 島田律子⁵・佐藤豊三 ⁶ (¹森林総研・ ² 森林総研北海道・³日大生物資源科学・ ⁴ 森林総研東北・ ⁵ 東京都・ ⁶ 農研機構 遺資セ)	253 国内産レタス根腐病菌の遺伝的性状に ついて ●大谷將之 ¹ ・宮川貴光 ¹ ・渡辺賢太 ² ・ 古澤安紀子 ^{3,4} ・三木静恵 ³ ・伊藤瑞 穂 ⁴ ・宇佐見俊行 ¹ (「千葉大院園・ ² 茨 城農総セ園研・ ³ 群馬農技セ・ ⁴ 株式会 社 GRA)
17:30	154 大阪湾海岸のアオサ属藻類からのノリ 赤腐病菌 Pythium porphyrae の分離 ●中川章吾¹・田中淳和¹・川村嘉応²・ 三根崇幸²・東條元昭¹(¹大阪府大院 生環・²佐賀有明水産振興セ)	254 秋田県南部のリンゴ収穫果に多発した 小黒斑について ○佐藤 裕 (秋田果試)
17:42	155 座長 ユビキチンリガーゼ PUB4 は CERK1 によるリン酸化修飾を受けて活性化する 〇出崎能丈・小泉春樹・松井紗樹・鈴 木丸陽・三浦駿希・石橋裕子・紀藤圭 治・渋谷直人・賀来華江(明治大農・ 生命科学)	255 座長 バラ切り花の灰色かび病に対する電解 次亜塩素酸水を用いたドライ処理法の 検討 ●谷中沙妃¹・森田修介²・菅原 敬³・小林 隆⁴・西沢 隆⁴・長谷 修⁴ (¹山形大院農・²東芝・³山形防除所庄 内・⁴山形大農)
17 : 54	156 ウリ類炭疽病菌の転写因子遺伝子 MTF4 は植物シグナル認識を介した付 着器形成および病原性に関与する ●小玉紗代 ¹ ・西内 巧 ² ・久保康之 ¹ (¹ 京府大院生環・ ² 金沢大・学際セン ター)	256 酸性電解水ドライ処理による収穫後オ クラ等の Botrytis cinerea の発病抑制 ○中西善裕 ¹ ・森田修介 ² ・上之薗茂 ¹ ・ 田川彰男 ¹ (¹ 鹿児島大隅加工セ・ ² 東芝)

第3会場	第4会場	第5会場
352 茨城県におけるベノミル耐性サツマイ モつる割病菌の発生 ○島田 峻 ¹ ・赤井浩太郎 ² ・西宮智 美 ¹ ・渡邊 健 ¹ ・有江 力 ² (¹ 茨城農 総セ農研・ ² 農工大院農)	452 誘導型カリフラワーモザイクウイルス Tav 遺伝子発現シロイヌナズナが示す 成長抑制における遺伝子発現の網羅的 解析 ●寺田 忍¹・ボホール サチン アショーク¹・田中啓介²・坂本 光²・ 関根健太郎³・八丈野孝¹・山岡直人¹・ 西口正通¹・小林括平¹(¹愛媛大農・ ²東京農大・³琉球大農)	552 座長 青枯病菌 OE1-1 株のクオラムセンシ ングに関わる新奇センサーカイネース 遺伝子の同定 ●林 一沙¹・石川詩歩¹・森 友花¹・ 木場章範¹・大西浩平²・甲斐建次³・ 曳地康史¹(¹高知大農・²高知大総研セ・ ³阪府大院生命環境)
353 病原体に対する植物の抵抗性を向上させる化合物の作用機構の解析 ○北畑信隆 ^{1,2} ・吉田亜祐美 ¹ ・吉川岳 史 ¹ ・石賀康博 ³ ・来須孝光 ⁴ ・平塚和 之 ⁵ ・浅見忠男 ⁶ ・朽津和幸 ^{1,2} (¹ 東京 理科大理工・ ² 東京理科大 IFC・ ³ 筑波大生命環境・ ⁴ 東京工科大応用生 物・ ⁵ 横浜国大・ ⁶ 東大院農生科)	453 Recovery of the virulence of large-scale synonymously mutated Cucumber mosaic virus during passage inoculation Mochizuki, T. 1,2, and Roossinck, M.J. 2 (1 Osaka Pref. Univ., 2 Penn. State Univ.)	553 ラルフラノン化合物は、青枯病菌 OE1-1 株のクオラムセンシングの フィードバック制御に関与する 森 友花¹・○石川詩歩¹・林 一沙¹・ 木場章範¹・大西浩平²・甲斐建次³・ 曳地康史¹(¹高知大農・²高知大総研セ・ ³阪府大院生命環境)
354 新規殺菌剤イソフェタミド(ケンジャ®) に関する研究 〜第5報 浸透移行性の 評価 ○西見周子・阿部ゆずか・三谷 滋(石 原産業中研)	454 コムギ縞萎縮ウイルスの病原型 I 型と II 型の違いに関わるゲノム領域の探索 ○大木健広 ¹ ・笹谷孝英 ² ・白子幸男 ³ ・ 眞岡哲夫 ¹ (¹ 農研機構北海道農研・ ² 農研機構本部・ ³ 東大)	554 ラルフラノン化合物は、クオラムセン シングにより阻害される青枯病菌 OE1-1 株のマッシュルーム型バイオ フィルム形成を抑制する 森 友花¹・細井勇希¹・石川詩歩¹・ 林 一沙¹・浅井 遊¹・木場章範¹・ 大西浩平²・甲斐建次³・○曵地康史¹ (¹高知大農・²高知大総研セ・³阪府大 院生命環境)
	Upregulation of pathogenesis-related protein genes after the induced silencing of chloroplast protein genes in transgenic tobacco Bhor, S.A.¹, Tateda, C.², Mochizuki, T.³, Sekine, K.⁴, Yaeno, T.¹,5, Yamaoka, N.¹,5, Nishiguchi, M.⁵, and ○ Kobayashi, K.¹,5 (¹UGAS-Ehime Univ., ²Iwate Biotech. Res. Centr., ³Osaka Pref. Univ., ⁴Univ. Ryukyus, ⁵Ehime Univ.)	555 青枯病菌 TonB-dependent receptor の 機能解析 ○大西浩平・渡邊諒介・木場章範・曳 地康史(高知大学)
	456 トマトアスパーミィウイルスの <i>Nicotiana glutinosa</i> に壊死斑を誘導す る因子の解析 ○田村美里・井上創太・宇垣正志・鈴 木 匡(東大院新領域)	556 座長 非病原性 Rhizobium vitis VAR03-1 株に よるブドウ根頭がんしゅ病の病原性関 連遺伝子の発現抑制 ●齊藤 晶¹・渡邉 恵¹・松井英譲¹・ 山本幹博¹・一瀬勇規¹・豊田和弘¹・ 川口 章²・能年義輝¹(¹岡山大農・ ²農研機構西日本農研)

4月27日(木)	第1会場	第2会場
18:06	157 LysM 型受容体様キナーゼ CERK1 の 自己リン酸化部位 Y428 はキナーゼの 活性化を通じてキチン応答を制御する ●鈴木丸陽・渡邉 巧・出崎能丈・渋 谷直人・賀来華江(明治大 農 生命科学)	257 微酸性電解水による浸種工程における イネばか苗病の感染抑制効果 ○本田浩央 ¹ ・野田崇啓 ² ・森田修介 ³ (¹ 山形農総研セ・ ² 農研機構革新工学 セ・ ³ (株) 東芝)
18:18	158 Single molecule signaling analysis of CDPK kinase and the suppressor signals of Phytophthora in HR in plant cell Furuichi, N. 1,2,3, and Ohta, M. 4 (1Furuichi Insti., 2Science Advisory Board Mem, 3Fulblight Senior Prof., 4Ohta Insitute)	258 セラミック多層電極を用いたプラズマ によるアブラナ科黒腐病菌の殺菌 ○西岡輝美 ¹ ・西村幸芳 ¹ ・三沢達也 ² ・ 岡田清嗣 ¹ (¹ 大阪環農水研・ ² 佐賀大 院工)

第3会場	第4会場	第5会場
		557 Pseudomonas syringae pv. tomato DC3000 の AefR 転写因子は本菌の病 原力を負に制御する ●石賀貴子¹・石賀康博¹・清川達則²・ 丸山 望²・別役重之¹・一瀬勇規³・ 野村暢彦¹(¹筑波大生命環境・²筑波 大院生命環境・³岡大院環境生命)
		Chemotaxis of <i>Pseudomonas syringae</i> pv. tabaci toward several compounds that exist in plant ■ Tumewu, S.A.¹, Yamada, H.², Sugihara, Y.², Matsui, H.¹, Yamamoto, M.¹, Noutoshi, Y.¹, Toyoda, K.¹, and Ichinose, Y.¹ (¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²Faculty of Agriculture, Okayama Univ.)

■第3日目午前

■ 年3 口日十削	笠1 人相	~ 0.4.18
4月28日金	第1会場	第2会場
9:30	159 座長 宿主特異的 ACR 毒素の非感受性に関わる AmBP30 複合体構成タンパク質 候補群間の相互作用解析 ●島上卓也・大谷耕平・小川実可子・ 西田壮志・安田晋輔・西村 聡・三宅 ちか子・多々野智・小野由紀子・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也(香 川大農)	259 座長 ブロッコリー苗立枯病(リゾクトニア 菌)およびレタス白絹病に対する各種 薬剤のセルトレイ灌注処理の効果 ○楠 幹生(香川県農業試験場病害虫 防除所(香川農試防))
9:42	160 Alternaria alternata タンゼリン系統が 生産する宿主特異的 ACT 毒素の生合 成経路における ACTT1 の役割 ●田中佐和¹・勝本真衣¹・松平一志¹・ 島上卓也¹・増中 章¹・宮本蓉子¹・ 大谷耕平¹・望月 進¹・柘植尚志²・ 山本幹博³・市村和也¹・五味剣二¹・ 秋光和也¹(¹香川大農・²名大院生農・ ³岡山大農)	260 オオムギ網斑病に対する金属銀水和剤 による種子消毒の防除効果 ○宇山啓太・長谷川優(鳥取農試)
9:54	161 カンキツ黒腐病菌 Alternaria citri における異化代謝産物抑制に対する各種希 少糖の作用 ●石原亜由美¹・望月 進¹・大谷耕 平²・一色淳憲¹・何森 健¹・吉原明 秀¹・加藤 寛¹・市村和也¹・五味剣 ニ¹・秋光和也¹(¹香川大農・²松谷化 学工業)	261 走行型超音波発振装置を用いたイチゴ うどんこ病発病抑制効果 ○有元倫子¹・下川陽一¹・山本雅則¹・ 江波義成¹・天野 裕²・岩ヶ谷照義²・ 後藤昭広²・吉田隆延³・川上大地⁴・ 有江 力⁴(¹滋賀県農業技術振興セン ター・²(株) プレテック・³農研機構・ 革新工学セ・⁴農工大院連農)
10:06	162 トマト野生種におけるトマトアルターナリア茎枯病菌抵抗性遺伝子 <i>Ascl</i> の欠失は AAL 毒素感受性に関与する 澄川敦馬¹・○永井瞭汰¹・吾郷亜希¹・ 赤木靖典²・板井章浩³・有江 力⁴・ 児玉基一朗²(¹鳥取大農・²鳥取連大・ ³ 京都府大農・⁴農工大院農)	262 座長 ビワ白紋羽病罹病樹に対する 45℃温 水点滴処理の治療効果 ○内川敬介¹・古賀敬一²・中村 仁³ (¹長崎農技セ果樹・²長崎農林部・ ³農研機構果樹茶部門)
10:18	163 座長 RNA分解ドメインを持つエフェクター SRN はウリ類炭疽病菌の病原性に関与する ○熊倉直祐 ¹ • Suthitar Singkaravanit Ogawa ² • Pamela Gan ¹ • 津島綾子 ^{1,4} • 鳴坂真里 ³ • 鳴坂義弘 ³ • 高野義孝 ² ・ 白須 賢 ^{1,4} (¹ 理研 CSRS・ ² 京大院農・ ³ 岡山生物研・ ⁴ 東大院理)	263 Trichoderma harzianum を含有する土 壌改良資材と温水処理との併用による 白紋羽病菌の衰退および真菌の推移 ○髙橋真秀¹・勝山千恵²・蔦木康徳¹・ 久我ゆかり²・中村 仁³(¹千葉農林 総研・²広島大院総科・³農研機構果樹 茶部門)

第3会場	第4会場	第5会場
359 座長 新潟県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒法によるトマト青枯病の 防除効果 ○前田征之 ¹ ・太田沙由理 ¹ ・古川勇一 郎 ¹ ・白鳥 豊 ¹ ・原澤良栄 ¹ ・中保一 浩 ² (¹ 新潟農総研・ ² 農研機構中央農研)	459 座長 キク矮化ウイロイド抵抗性のキクタニ ギクの探索 ○松下陽介(農研機構・野花研)	559 座長 Spread of <i>Sri Lankan cassava mosaic virus</i> in Cambodia ○ Uke, A. ¹ , Seb, V. ² , Iv, P. ³ , Ugaki, M. ¹ , and Natsuaki, K.T. ⁴ (¹ Univ. Tokyo, ² Univ. Battanbang, ³ GDA Cambodia, ⁴ Tokyo Univ. Agric.)
360 岐阜県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒法の有効性評価 ○村元靖典 ¹ ・渡辺秀樹 ¹ ・棚橋寿彦 ¹ ・ 中保一浩 ² (「岐阜農技セ・ ² 農研機構・ 中央農研)	460 ポスピウイロイドのウイロイド感染花 粉による水平伝染の可能性 ○柳澤広宣 ^{1,2} ・松下陽介 ³ (¹ 農研機構 中央農業研究センター・ ² 岩手連合大 学院・ ³ 農研機構 野菜花き研究部門)	560 Olpidium virulentus の遊走子放出に及ぼす土壌 pH の影響 ○池田健一 ¹ ・井上 海 ¹ ・岩本 豊 ² ・相野公孝 ² ・松浦克成 ² ・前川和正 ² ・中屋敷均 ¹ ・西口真嗣 ² (¹ 神大院農・ ² 兵庫農技総セ)
361 トマトの各種土壌病害に対する新規土 壌還元消毒資材「糖含有珪藻土」の効果 ○大谷洋子 ¹ ・中保一浩 ² (¹ 和歌山農試・ ² 農研機構中央農研)	461 ダリアに感染しているジャガイモやせいもウイロイド各種クローンのトマトでの病原性とゲノム変異 ○藤 晋一・西村真帆・戸田 武・古屋廣光(秋田県大生資)	561 土壌からのミラフィオリレタスビック ベインウイルスの qRT-PCR 法による 検出 ●井上 海¹・松浦克成²・岩本 豊²・ 西口真嗣²・池田健一¹・中屋敷均¹ (¹神戸大院農・²兵庫農総セ)
362 千葉県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒のサツマイモネコブセン チュウに対する効果 ○鐘ヶ江良彦・國友映理子・武田 藍・ 福田 寛(千葉農林総研)	462 ジャガイモやせいもウイロイドのトマトに対する弱毒性を特徴づける塩基変異の評価 ○対馬大希 ^{1,2} •佐野輝男 ¹ (¹ 弘大農生・ ² 岩手連大)	occurrence and molecular characterization of begomoviruses infecting eggplant and pepper plants in Indonesia Wilisiani, F.¹, Morita, Y.⁴, Okawara, A.⁴, Mashiko, T.¹, Wang, W.², Hartono, S.³, Suzuki, T.², Nishigawa, H.¹,², and Natsuaki, T.¹,² (¹TUAT, ²Utsunomiya Univ., ³Gadjah Mada Univ., ⁴Utsunomiya Chuo GSHS)
363 新規資材糖含有珪藻土を用いた土壌還元消毒法における細菌群集の変化 ○李 哲揆¹・飯田敏也¹・角野晶大²・三澤知央²・加賀友紀子³・前田征之⁴・川部眞登⁵・松田絵里子⁶・大谷洋子7・村元靖典8・渡辺秀樹8・中保一浩9・大熊盛也¹(¹理研 BRC・²道総研・道南農試・³青森野菜研・⁴新潟農総研・⁵富山農総セ園研・ ⁶ 石川農林総研・ ⁷ 和歌山農試・ ⁸ 岐阜農技セ・ ⁹ 農研機構中央農研)	463 リンゴゆず果ウイロイドホップ分離株 及びカキ分離株のトマトでの病原性解析 ●鈴木貴大 ¹ ・藤林美里 ¹ ・種田晃人 ² ・ 畑谷達児 ³ ・佐野輝男 ¹ (¹ 弘大農生・ ² 弘大院理工・ ³ 北大院農)	563 座長 リンゴ小球形潜在ウイルス(ALSV) ベクターで世代促進したリンドウ由来 の後代実生からは ALSV は検出され ない ●鎌田和樹・山岸紀子・磯貝雅道・吉 川信幸(岩手大農)

■第3日目午前

■第3日目午前		
4月28日金	第1会場	第2会場
10:30	164 ウリ類炭疽病菌における CoPpt1 は非 選択的オートファジー関連因子 CoAtg8 と共局在し病原性に関与する ●梶河直起・深田史美・久保康之(京 府大院・生環)	264 モモ樹の耐熱性と低温水の点滴処理による白紋羽病菌の死滅効果 金谷寛子 ¹ ・○妹尾真里 ¹ ・桐野菜美 子 ¹ ・矢尾幸世 ¹ ・谷名光治 ¹ ・中村 仁 ² (¹ 岡山農研・ ² 農研機構果樹茶部門)
10:42	165 ウリ類炭疽病菌のホメオボックス転写 因子 CoHox4 は栄養菌糸生育, 分生胞 子の形態, 付着器形成および病原性に 関与する ●小幡善也・横山 綾・泉津弘佑・入 江俊一・鈴木一実(滋賀県大環境)	265 イネから分離された Pantoea ananatis CTB1206 株による植物病原糸状菌の 胞子発芽抑制 ○長谷川優(鳥取農試)
10:54	166 アブラナ科炭疽病菌のストレス応答制 御因子 ChWHI2 は病原性に必須であり、宿主植物の防御応答に関与する ●長田暢洋 ¹ ・原田 賢 ² ・奥野哲郎 ² ・西内 巧 ³ ・久保康之 ¹ (¹ 京府大院・生環・ ² 龍谷大・農学・ ³ 金沢大院・学際セ)	266 トマト葉かび病の発病を抑制する菌寄 生菌 <i>Dicyma pulvinata</i> ○飯田祐一郎 ¹ ・池田健太郎 ² ・酒井 宏 ³ ・窪田昌春 ¹ (¹ 農研機構・ ² 群馬県庁・ ³ 群馬農技セ)
11:06	167 Studies on post-invasive nonhost resistance of Arabidopsis thaliana against a mulberry pathogen Colletotrichum gloeosporioides	267 スギ花粉の飛散を抑制する Sydowia japonica の伝染機構 ○髙橋由紀子・窪野高徳(森林総研)
11:18	Inappropriate expression of NLP effector impairs <i>Colletotrichum</i> infection on cucurbits via recognition of its C-terminal region ○ Singkaravanit-Ogawa, S.¹, Nur Sabrina, A.A.¹, Ikeda, K.¹, Tanaka, S.¹, Inoue, Y.¹, Kaido, M.¹, Mise, K.¹, Narusaka, Y.², Shirasu, K.³, and Takano, Y.¹ (¹Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ., ²RIBS Okayama, ³CSRS RIKEN)	
11:30	169 座長 ダイズ黒根腐病耐病性変動の解析 ○黒田智久・藤田与一・堀 武志・川 上 修 (新潟農総研作物研)	

第3会場	第4会場	第5会場
364 座長 生物的土壌消毒における消毒資材植物 の細断同時鋤き込み機の開発 ○竹原利明 ¹ ・豊田和範 ² ・佐藤泰三 ³ ・ 垰田宗吾 ⁴ ・高橋仁康 ¹ ・石岡 厳 ¹ (¹ 農研機構西日本農研・ ² マメトラ四 国機器 (株)・ ³ 徳島農総技支セ・ ⁴ マ メトラ農機 (株))	464 トマトの DCL2 と DCL4 はジャガイ モやせいもウイロイド (PSTVd) の 初期増殖と病徴発現を抑制する ●池田 翔¹・葛西厚史¹・種田晃人²・ 奥田真生¹・鈴木貴大¹・佐野輝男¹ (¹弘大農生・²弘大院理工)	564 除去可能な植物ウイルスベクターの開発 発中条哲也・吉川 学・有賀裕剛・遠藤 真咲・土岐精一・○石橋和大(農研機 構・生物機能利用研究部門)
365 レタスビッグベイン病に対する露地型 土壌還元消毒における省力フィルム被 覆・除去機の開発 ○佐藤泰三¹・米本謙悟¹・田村 收¹・ 山下 浩¹・本荘絵未²・河合正志²・ 陶山 純²・石岡 厳³・竹原利明³ (¹徳島農総技支セ・²みのる産業(株)・ ³農研機構・西日本農研)	465 座長 ハクサンハタザオから単離したキュウリモザイクウイルスの性状解析 ○高橋英樹・吉澤 峻・宮下脩平・安藤杉尋(東北大院農)	565 リンゴ小球形潜在ウイルス(ALSV) ベクターのリンドウ育種への応用 ○山岸紀子 ^{1,2} ・鎌田和樹 ¹ ・日影孝 志 ² ・吉川信幸 ¹ (¹ 岩手大農・ ² 八幡平 市花き研究開発セ)
366 露地型土壌還元消毒後のレタスビッグ ベイン病発病抑制方法 ○米本謙悟 ¹ ・佐藤泰三 ¹ ・田村 收 ¹ ・ 山下 浩 ¹ ・竹原利明 ² (¹ 徳島農総技 支セ・ ² 農研機構西日本農研)	466 EMS 変異誘発シロイヌナズナ系統における NB-LRR クラス抵抗性遺伝子 <i>RCYI</i> プロモーター領域シトシンメチル化と CMV 抵抗性レベル低下の相関 ○佐藤有希代・宮下脩平・安藤杉尋・高橋英樹(東北大院農)	566 ハバネロのアミノトランスフェラーゼ (<i>pAMT</i>) のウイルス誘導ジーンサイレンシング (VIGS) がカプサイシンとカプシエイト合成に及ぼす影響 ○李 春江¹・及川夏綺¹・平野博人²・吉川信幸¹ (¹岩手大農・²味の素(株))
367 ダゾメット粉粒剤のネギ黒腐菌核病生 存菌核数への影響 ○斉藤千温 ¹ ・鈴木幹彦 ¹ ・墨岡宏紀 ² (¹ 静岡農林研・ ² 静岡中遠農林)	467 ヒストン脱メチル化酵素変異体 <i>ldl</i> に おけるキュウリモザイクウイルス抵抗 性の解析 ●小関彩恵子¹・宮下脩平²・高橋英 樹²・安藤杉尋²(¹東北大農・²東北大 院農)	567 リンゴ小球形潜在ウイルス(ALSV) ベクターを用いたヒロハマンテマ遺伝 子機能解析系の確立 ○藤田尚子¹・山岸紀子²・佐々木舞 衣¹・有江 力¹・吉川信幸²・小松 健¹(¹農工大・²岩手大農)
	468 RNA サイレンシング関連因子 <i>AGO2</i> 遺伝子のプライミングにおける miRNA の役割 ○安藤杉尋・大谷 峻・宮下脩平・高 橋英樹(東北大院農)	568 座長 日本産イネいもち病菌に感染する Magnaporthe oryzae virus 2 の遺伝的多 様性と宿主に与える影響 ●大鷲友多¹・相原光宏¹・福原敏行¹・ 平八重一之³・有江 力¹・寺岡 徹²・ 小松 健¹(¹農工大院農・²農工大環 安セ・³農研機構・九沖農研)
	469 キュウリモザイクウイルスの欠失変異 パターンの解析 ●本多宗一郎 ¹ ・安藤杉尋 ² ・高橋英 樹 ² ・宮下脩平 ² (¹ 東北大農・ ² 東北大 院農)	569 Comparison of two related mycoreoviruses reveals natural variation of antiviral RNA silencing in the chestnut blight fungus Aulia, A. ¹ , Andika, I.B. ¹ , Hillman, B.I. ² , and O Suzuki, N. ¹ (¹ IPSR, Okayama Univ, ² Rutgers Univ)

■第3日目午前

4月28日金	第1会場	第2会場
11 : 42	170 東山 231 号が保有するダイズ茎疫病抵 抗性遺伝子 ○髙橋真実¹・山田哲也²・山田直弘³・ 赤松 創¹・高橋浩司²・高橋 幹² (¹農研機構 中央農研・²農研機構 作物 開発センター・³長野野花試)	
11:54	171 ダイズ茎疫病圃場抵抗性に関する QTL の導入効果と有望系統の特性把握 ○杉本琢真¹・牛尾昭浩¹・菅野正治⁵・ 姜 昌杰⁵・田口(塩原)文緒²・佐山 貴司²・大木信彦³・小松邦彦⁴・羽鹿 牧太²・石本正男²(¹兵庫県立農林水 産技術総合センター・²次世代作物開 発研究センター・³九州沖縄農業研究 センター・⁴西日本農業研究センター・ 5生物機能利用研究部門)	
12:06	172 Brassica rapa L. におけるアブラナ科植物白さび病抵抗性遺伝子の探索と検出 ●西本良太・宮路直実・藤本 龍・土佐幸雄・中馬いづみ(神戸大院農)	

第3会場	第4会場	第5会場
	470 植物ウイルスの多数決型意思決定システム (宮下脩平・安藤杉尋・高橋英樹(東北大院農)	570 アカクローバーうどんこ病菌より見い だされた新規トティウイルス ○近藤秀樹 ¹ ・久野 昌 ¹ ・千葉壮太 郎 ² ・鈴木信弘 ¹ (「岡山大・植物研・ ² 名古屋大・ASCI・生命農学)
		571 本邦産アスパラガス疫病菌から検出されたエンドルナウイルスのゲノム構造解析 ○内田景子 ¹ ・高橋優実 ² ・岡田 亮 ^{2,5} ・福原敏行 ² ・有江 力 ³ ・寺岡 徹 ³ ・植松清次 ⁴ ・森山裕允 ² (¹ 農工大院連農・ ² 農工大院農 細胞分子・ ³ 植物病理・ ⁴ 千葉農林総研暖地・ ⁵ 茨城園研)
		572 Fusarium boothii BL13 分離株に存在する3種の dsRNA 成分の生物学的性状 ○水谷行善 ¹ ・須賀晴久 ² ・鈴木信弘 ³ ・千葉壮太郎 ⁴ (¹ 名古屋大学大学院生命農学研究科・ ² 岐大生命セ・ ³ 岡山大・植物研・ ⁴ 名大 ASCI)